

SRSエアバッグ

目 次

整備上の注意	2	SRSエアバッグコントロールユニット (SRS-ECU).....	23
特殊工具	5	エアバッグモジュール・ クロックスプリング	25
テスト機器	6	サイドインパクトセンサー	30
トラブルシューティング	7	エアバッグモジュール廃却要領	32
衝突車両の診断	19	展開前のエアバッグモジュールの廃却	32
SRSエアバッグ構成部品の整備	22	展開済のエアバッグモジュールの廃却	37
コーションラベル	22		

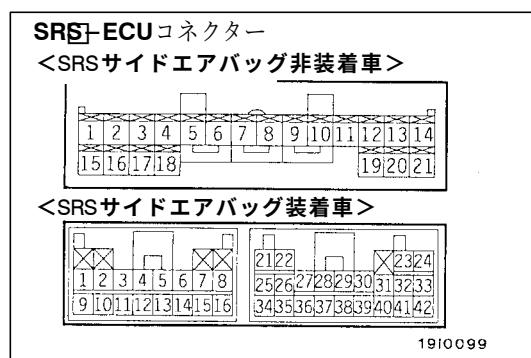
注意

安全な作業を行うため作業前に“整備上の注意”を熟読すること。

整備上の注意

1. SRSエアバッグの整備を行うときは、本書で指示した作業手順及び注意事項に従い安全な作業を行うこと。
2. 本書で指定したテスター及び特殊工具を必ず使用すること。
3. 下記部品の修理は必ず新品部品に交換すること。

- (1) 運転席エアバッグモジュール
- (2) クロックスプリング
- (3) SRSエアバッグコントロールユニット (SRS-ECU)
- (4) 助手席エアバッグモジュール
- (5) サイドインパクトセンサー
- (6) サイドエアバッグモジュールはフロントシートバック交換



4. SRSエアバッグのハーネスコネクターに異常がある場合は新品と交換する。もし、ハーネスに異常がある場合は下表に従い修正又は交換を行うこと。

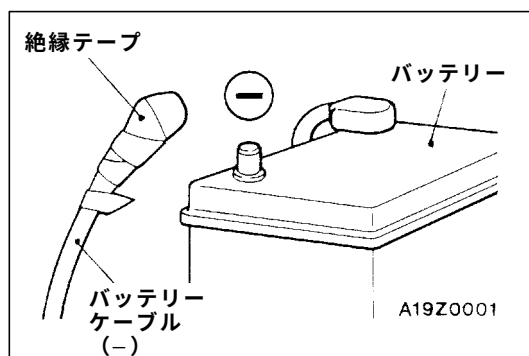
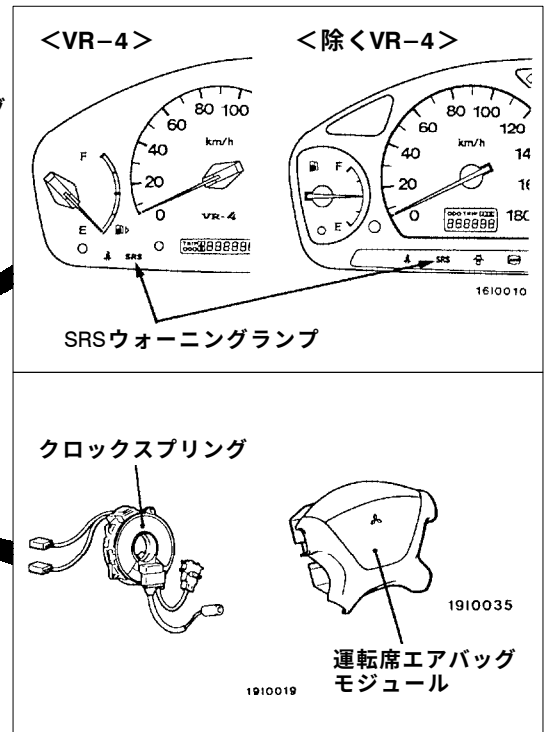
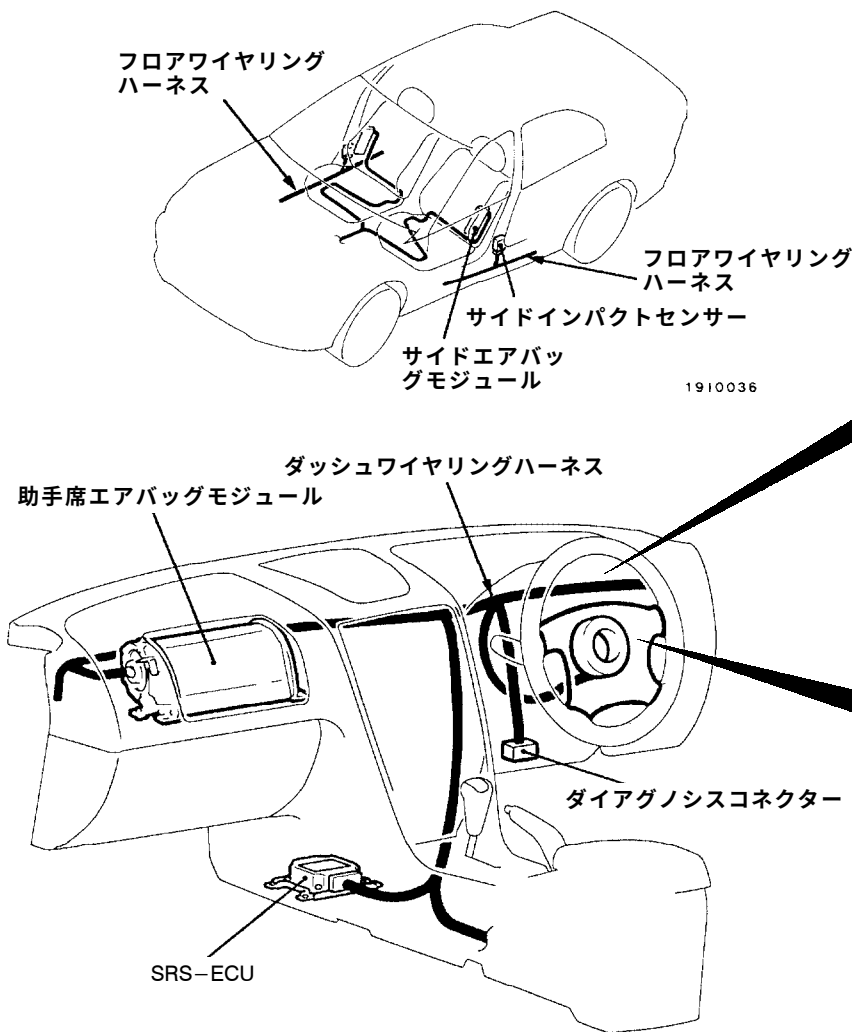
<SRSサイドエアバッグ非装着車>

SRS-ECU 端子No.	ハーネスの接続先	処置
1～4	－	－
5, 6	ダッシュワイヤリングハーネス→クロックスプリング	クロックスプリング交換又はダッシュワイヤリングハーネスの修正、交換
7, 8	ダッシュワイヤリングハーネス→助手席エアバッグモジュール	ダッシュワイヤリングハーネスの修正又は交換
9, 10	－	
11	ダッシュワイヤリングハーネス→ダイアグノシスコネクター	
12	－	
13	ダッシュワイヤリングハーネス→ジャンクションブロック (ヒューズNo.4)	各ワイヤリングハーネスの修正又は交換
14	ダッシュワイヤリングハーネス→ジャンクションブロック (ヒューズNo.13)	
15	ダッシュワイヤリングハーネス→インストルメントパネル ワイヤリングハーネス→SRSウォーニングランプ	
16～19	－	－

SRS-ECU 端子No.	ハーネスの接続先	処置
20, 21	ダッシュワイヤリングハーネス→アース	ダッシュワイヤリングハーネスの修正 又は交換

<SRSサイドエアバッグ装着車>

SRS-ECU 端子No.	ハーネスの接続先	処置
1, 2	–	–
3	ダッシュワイヤリングハーネス→アース	ダッシュワイヤリングハーネスの修正 又は交換
4	ダッシュワイヤリングハーネス→インストルメントパネル ワイヤリングハーネス→SRSウォーニングランプ	各ワイヤリングハーネスの修正又は 交換
5, 6	ダッシュワイヤリングハーネス→助手席エアバッグモジュール	ダッシュワイヤリングハーネスの修正 又は交換
7, 8	ダッシュワイヤリングハーネス→クロックスプリング	クロックスプリング交換又はダッシュ ワイヤリングハーネスの修正、交換
9	ダッシュワイヤリングハーネス→ジャンクションブロック (ヒューズNo.4)	ダッシュワイヤリングハーネスの修正 又は交換
10, 11	–	
12	ダッシュワイヤリングハーネス→ジャンクションブロック (ヒューズNo.13)	
13	–	
14, 15	ダッシュワイヤリングハーネス→アース	
16	ダッシュワイヤリングハーネス→ダイアグノシスコネクター	
17～20	–	
21, 22	ダッシュワイヤリングハーネス→左側サイドエアバッグ モジュール	
23, 24	ダッシュワイヤリングハーネス→右側サイドエアバッグ モジュール	
25～33	–	
34, 35, 36	ダッシュワイヤリングハーネス→フロアワイヤリングハーネス→ サイドインパクトセンサー (左側)	各ワイヤリングハーネスの修正又は交 換
37～39	–	
40, 41, 42	ダッシュワイヤリングハーネス→フロアワイヤリングハーネス→ サイドインパクトセンサー (右側)	



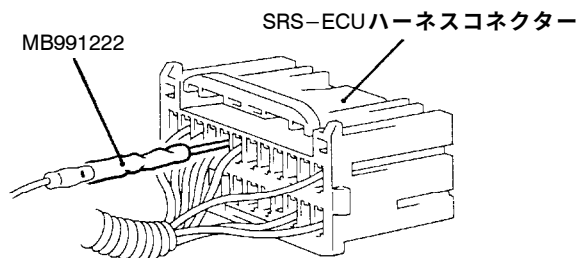
5. 整備作業はバッテリーの(-)端子の接続を外してから60秒以上待ってから行うこと。また、外した(-)端子はテープを巻いて絶縁すること。SRS-ECU内のコンデンサーはバッテリー電圧を除去した後も一定時間エアバッグを展開させるために必要な電圧を保持しており、この時間を待たずに作業を行うとエアバッグの誤展開により重大な傷害を引き起こす原因となる。
6. 塗装作業時に熱(93℃以上)による影響が出る場合はSRS-ECU、エアバッグモジュール(運転席、助手席)、クロックスプリング、フロントシートAss'y(サイドエアバッグモジュール)、サイドインパクトセンサーを取外しておくこと。
7. SRSエアバッグの整備完了後は必ずダイヤグノシスコードを消去し、SRSウォーニングランプの点灯状況を確認すること。
(P52B-7参照)

1910006

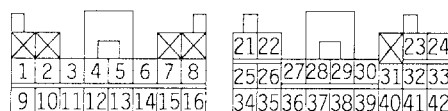
00005601

8. SRS-ECU<SRSサイドエアバッグ装着車>のハーネスコネクタでの点検を行うときは次の要領で行うこと。

ハーネスコネクタのハーネス側（背面）から特殊工具（ハーネスセット中の極細プローブ）を挿入し、これにテスト機器を接続して行うこと。特殊工具以外を使用するとハーネス等を傷める原因となる。また、コネクタ正面より端子に直接プローブ等を当てて測定しないこと。コネクタ端子には導通性を高めるため、メッキを施しているためプローブ等を当てるとメッキが剥がれ信頼性が低下する。



SRS-ECUハーネスコネクタ（背面視）



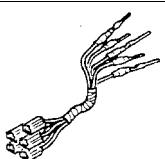
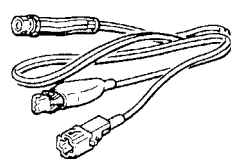
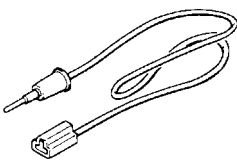
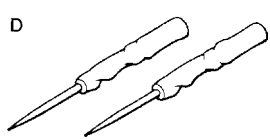
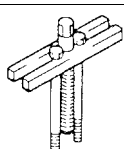
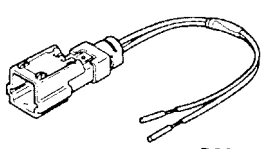
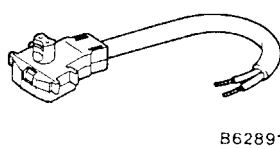
19R0052

1910099

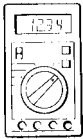
00005711

特殊工具

工具	番号	名称	用途
 B991502	MB991502	MUT-IIサブAss'y	● ダイアグノシスコードの読み取り及び消去 ● 故障継続時間の読み取り ● 記憶消去回数の読み取り
 B991606	MB991606	SRSチェック ハーネス	SRSエアバッグ電気回路の点検
 B991622	MB991622	SRSアダプター ハーネス	

工具	番号	名称	用途
A  B  C  D  B991223	MB991223 A: MB991219 B: MB991220 C: MB991221 D: MB991222	ハーネスセット A: 点検ハーネス B: LEDハーネス C: LEDハーネス アダプター D: プローブ	SRS-ECUハーネスコネクタでの導通点検及び電圧測定<SRSサイドエアバッグ装着車>
 B990803	MB990803	ステアリング ホイールプラー	ステアリングホイールの抜き取り
 B686560	MB686560	SRSエアバッグ アダプターハーネス	● 運転席、助手席エアバッグモジュール、サイドエアバッグモジュールの車内での展開 ● 助手席エアバッグモジュール、サイドエアバッグモジュールの車外での展開
 B628919	MR203491 又は MB628919	SRSエアバッグ アダプターハーネス	運転席エアバッグモジュールの車外での展開

テスト機器

機器	名称	用途
 13R0746	デジタル式 サーキットテスター	SRSエアバッグ電気回路の点検（抵抗値測定の最低レンジにおいて最大テスト電流が2 mA以下のものを使用する。）

トラブルシューティング

1. 故障診断の基本的流れ

グループ00–トラブルシューティングの見方・点検要領参照

2. ダイアグノシス機能

2-1 ダイアグノシスコードの読み取り方法

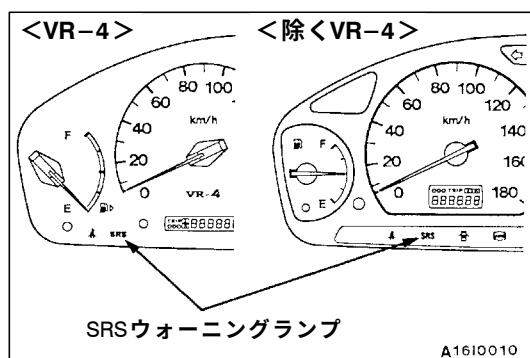
MUT-IIを16ピンダイアグノシスコネクタに接続し、ダイアグノシスコードを読み取る。
(グループ00–トラブルシューティングの見方・点検要領参照)

2-2 ダイアグノシスコードの消去方法

MUT-IIを16ピンダイアグノシスコネクタに接続し、ダイアグノシスコードを消去する。

注意

MUT-IIの接続及び切離しは、必ずイグニションスイッチをOFF位置に行うこと。



3. SRSウォーニングランプの点検

- (1) イグニションスイッチをONにしたとき、SRSウォーニングランプが点灯することを確認する。
- (2) 約6～8秒間点灯した後、消灯することを確認する。その後SRSウォーニングランプが5秒以上消灯しているか確認する。
- (3) 上記以外はダイアグノシスコードを点検する。

4. ダイアグノシスコード分類表

コードNo.	診断項目	参照ページ
14	SRS-ECU内アナログGセンサー系統	52B-8
15, 16	SRS-ECU内前突用セーフィングGセンサー系統	52B-8
17	SRS-ECU内側突用セーフィングGセンサー系統	52B-8
21, 22, 61, 62	運転席エアバッグモジュール（スクイブ）系統	52B-8
24, 25, 64, 65	助手席エアバッグモジュール（スクイブ）系統	52B-9
31, 32	SRS-ECU内DC-DCコンバーター系統	52B-10
34*	コネクタロック系統	52B-10
35	SRS-ECU（エアバッグ展開済）系統	52B-10
41*	IG ₁ （A）電源回路系統	52B-10
42*	IG ₁ （B）電源回路系統	52B-11
43	SRSウォーニングランプ駆動回路系統	ランプが点灯しない*
		ランプが消灯しない
44*	SRSウォーニングランプ駆動回路系統	52B-13
45	SRS-EUC内不揮発性メモリー（EEPROM）等の内部回路系統	52B-13
51, 52	運転席エアバッグモジュール（スクイブ点火駆動回路）系統	52B-13

コードNo.	診断項目	参照ページ
54, 55	助手席エアバッグモジュール（スクイブ点火駆動回路）系統	52B-13
71, 72, 75, 76	右側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）系統	52B-13
73, 74	右側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）点火駆動回路系統	52B-14
79, 93	左側サイドインパクトセンサー通信系統	52B-14
81, 82, 85, 86	左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）系統	52B-14
83, 84	左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）点火駆動回路系統	52B-15
89, 96	右側サイドインパクトセンサー通信系統	52B-15
91*	左側サイドインパクトセンサー電源回路系統	52B-16
92	左側サイドインパクトセンサー系統	52B-16
94*	右側サイドインパクトセンサー電源回路系統	52B-16
95	右側サイドインパクトセンサー系統	52B-16

備考

- (1) *印のダイアグノシスコードは、正常に復帰したときダイアグノシスコードを自動消去し、SRSウォーニングランプは正常となる。
- (2) ダイアグノシスコード41、42が同時に出力される場合は、バッテリー電圧の低下が考えられるので、トラブルシューティングを始める前にバッテリーを点検する。

5. ダイアグノシスコード別点検手順

コードNo.14 SRS-ECU内アナログGセンサー系統	推定不具合原因
このコードは、アナログGセンサー出力より次の現象を検知したとき出力される。 ● アナログGセンサーが作動しないとき ● アナログGセンサーの特性が異常なとき ● アナログGセンサーの出力が異常なとき	SRS-ECU不良

SRS-ECU交換

コードNo.15又は16 SRS-ECU内前突用セーフティングGセンサー系統	推定不具合原因
このコードは、前突用セーフティングGセンサーがショートしたとき（コードNo.15）や断線したとき（コードNo.16）出力される。	SRS-ECU不良

SRS-ECU交換

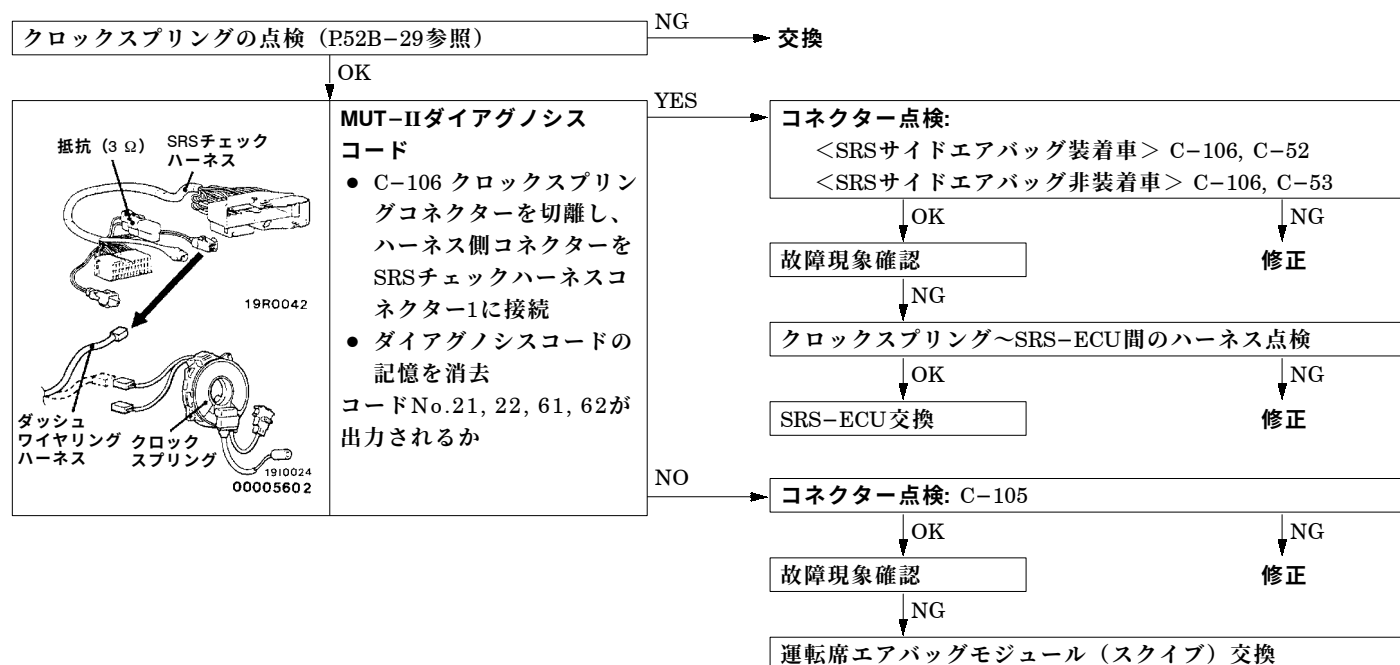
コードNo.17 SRS-ECU内側突用セーフティングGセンサー系統	推定不具合原因
このコードは、側突用セーフティングGセンサー出力より、次の現象を検知したとき出力される。 ● セーフティングGセンサーが作動しないとき ● セーフティングGセンサーの特性が異常なとき ● セーフティングGセンサーの出力が異常なとき	SRS-ECU不良

SRS-ECU交換

コードNo.21, 22, 61, 62 運転席エアバッグモジュール（スクイブ）系統	推定不具合原因
このコードは、SRS-ECUの運転席エアバッグモジュール（スクイブ）の入力端子間の抵抗が正常時と異なるとき出力される。各コードNo.の故障原因は、下記の表1を参照する。	● クロックスプリング不良 ● ハーネス、コネクタ不良 ● 運転席エアバッグモジュール（スクイブ）不良 ● SRS-ECU不良

表1

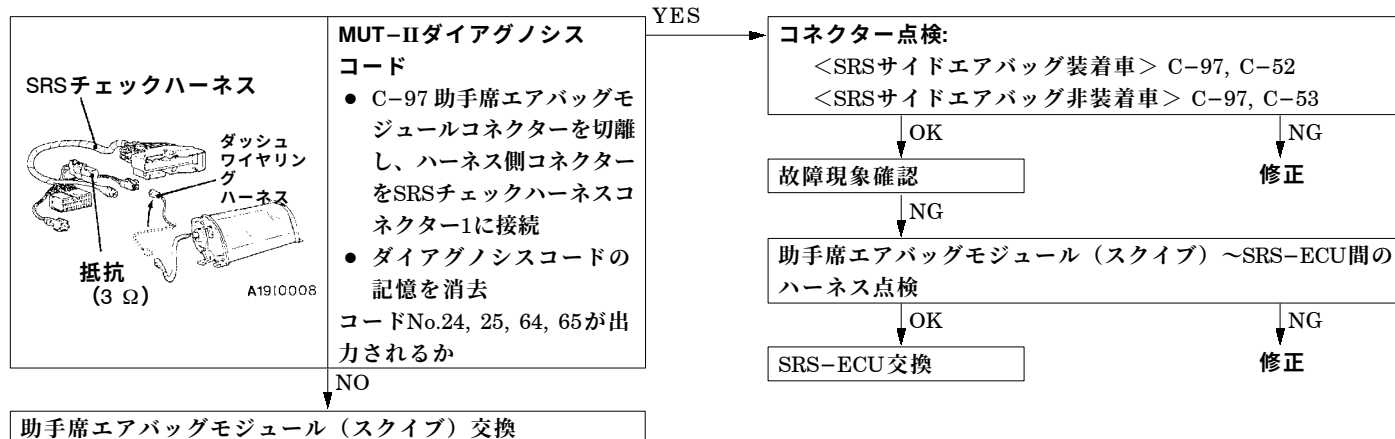
コードNo.	故障原因
21	● 運転席エアバッグモジュール（スクイブ）のショート又はハーネスショート ● クロックスプリングのショート
22	● 運転席エアバッグモジュール（スクイブ）の断線又はハーネス断線 ● クロックスプリングの断線 ● コネクター接触不良
61	運転席エアバッグモジュール（スクイブ）のハーネスが電源へショート
62	運転席エアバッグモジュール（スクイブ）のハーネスがアースへショート



コードNo.24, 25, 64, 65 助手席エアバッグモジュール（スクイブ）系統	推定不具合原因
このコードは、SRS-ECUの助手席エアバッグモジュール（スクイブ）の入力端子間の抵抗が正常時と異なるとき出力される。各コードNo.の故障原因は、下記の表1を参照する。	● ハーネス、コネクター不良 ● 助手席エアバッグモジュール（スクイブ）不良 ● SRS-ECU不良

表1

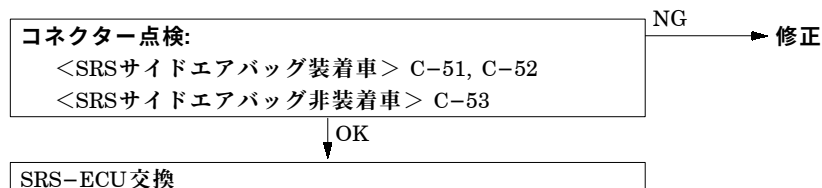
コードNo.	故障原因
24	助手席エアバッグモジュール（スクイブ）ショート又はハーネスショート
25	● 助手席エアバッグモジュール（スクイブ）の断線又はハーネス断線 ● コネクター接触不良
64	助手席エアバッグモジュール（スクイブ）のハーネスが電源へショート
65	助手席エアバッグモジュール（スクイブ）のハーネスがアースへショート



コードNo.31, 又は32 SRS-ECU内DC-DCコンバーター系統	推定不具合原因
このコードは、SRS-ECU内のDC-DCコンバーター端子電圧が5秒間以上規定値より上昇 (コードNo.31) 又は低下 (コードNo.32) したとき出力される。但し、バッテリー電圧低下のダイアグノシスコードNo.41と42が発生している場合、コードNo.32は検出しない。	SRS-ECU不良

SRS-ECU交換

コードNo.34 コネクタロック系統	推定不具合原因
このコードは、SRS-ECUコネクタの接続不良を検出したとき出力される。但し、正常に復帰したとき、コードNo.34は自動消去し、SRSウォーニングランプは消灯する。	● コネクタ不良 ● SRS-ECU不良

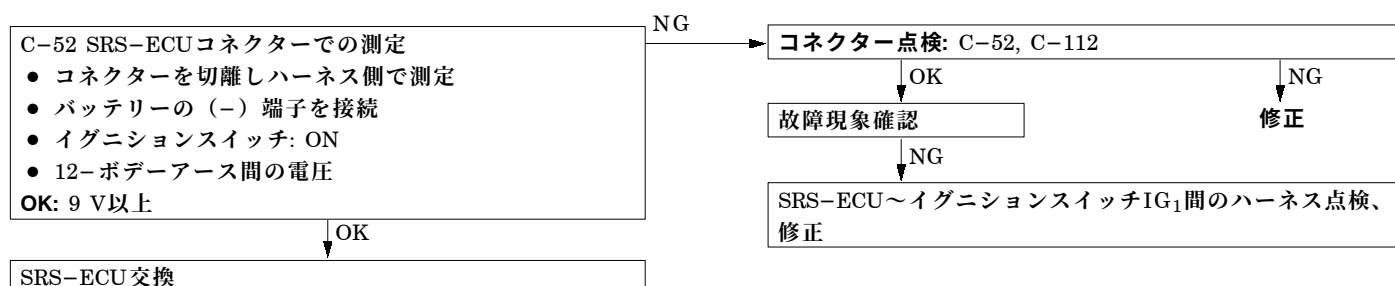


コードNo.35 SRS-ECU (エアバッグ展開済) 系統	推定不具合原因
エアバッグ展開後にこのコードを出力する。エアバッグが展開する前にこのコードが出力された場合は、SRS-ECUの内部の不良が考えられる。	SRS-ECU不良

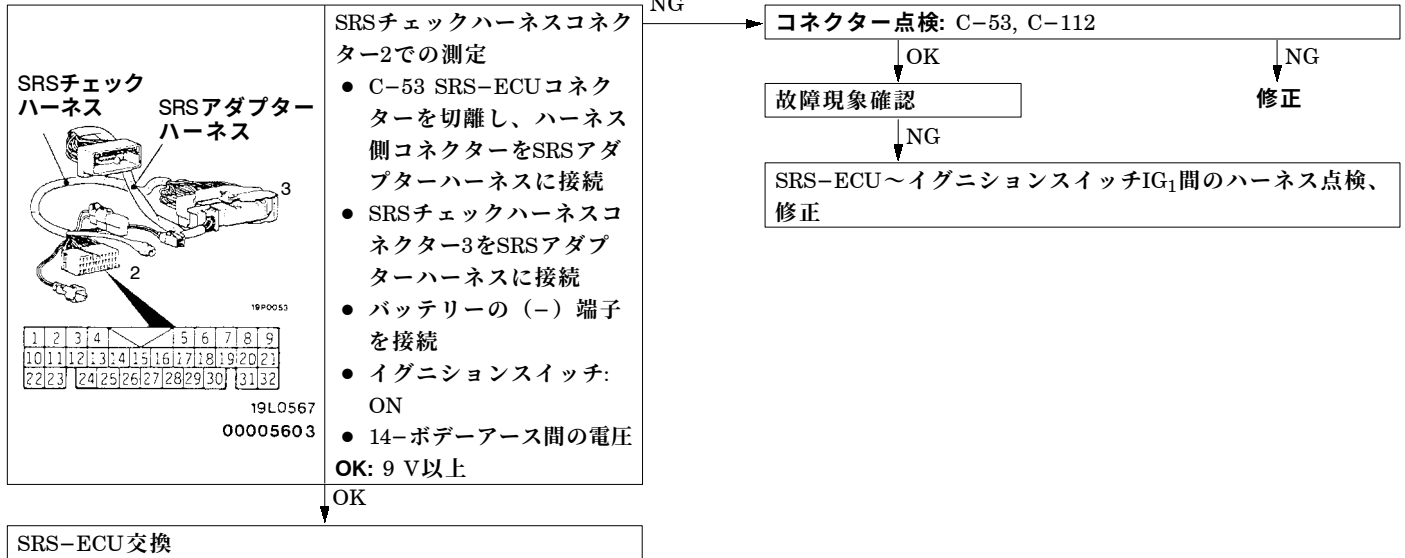
SRS-ECU交換

コードNo.41 IG ₁ (A) 電源回路系統	推定不具合原因
このコードは、IG ₁ (A) 端子とアース間の電圧が5秒間連続して規定値より低下したとき出力される。但し、正常に復帰したとき、コードNo.41は自動消去し、SRSウォーニングランプは消灯する。	● ハーネス、コネクタ不良 ● SRS-ECU不良

<SRSサイドエアバッグ装着車>

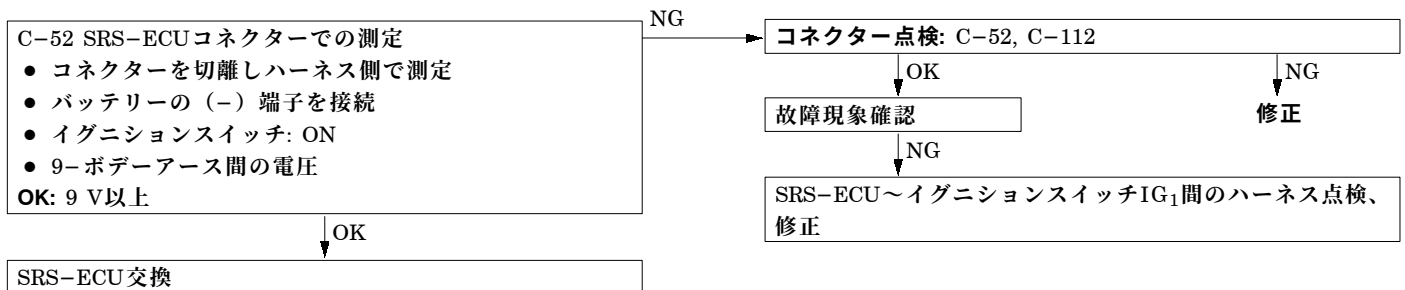


<SRSサイドエアバッグ非装着車>

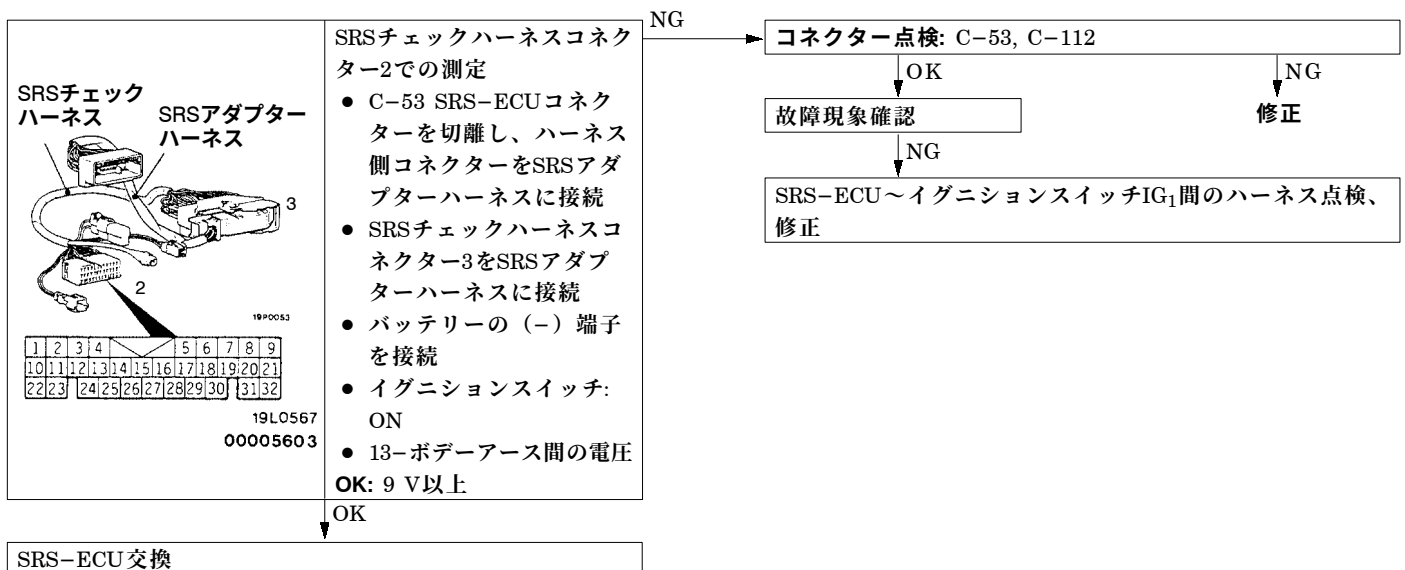


コードNo.42 IG ₁ (B) 電源回路系統	推定不具合原因
このコードは、IG ₁ (B) 端子とアース間の電圧が5秒間連続して規定値より低下したとき出力される。但し、正常に復帰したとき、コードNo.42は自動消去し、SRSウォーニングランプは消灯する。	● ハーネス、コネクタ不良 ● SRS-ECU不良

<SRSサイドエアバッグ装着車>

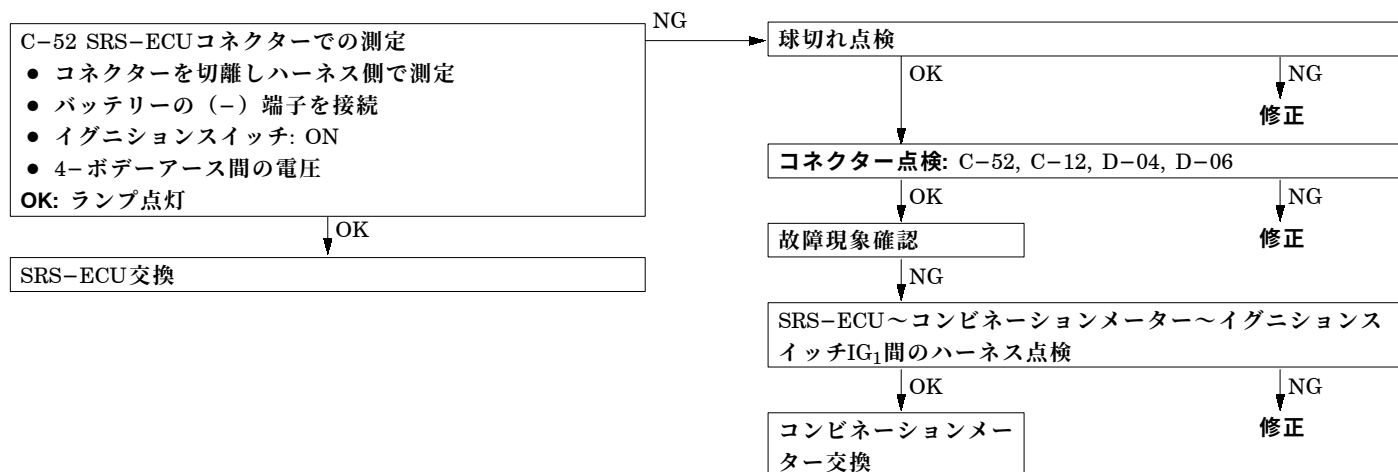


<SRSサイドエアバッグ非装着車>

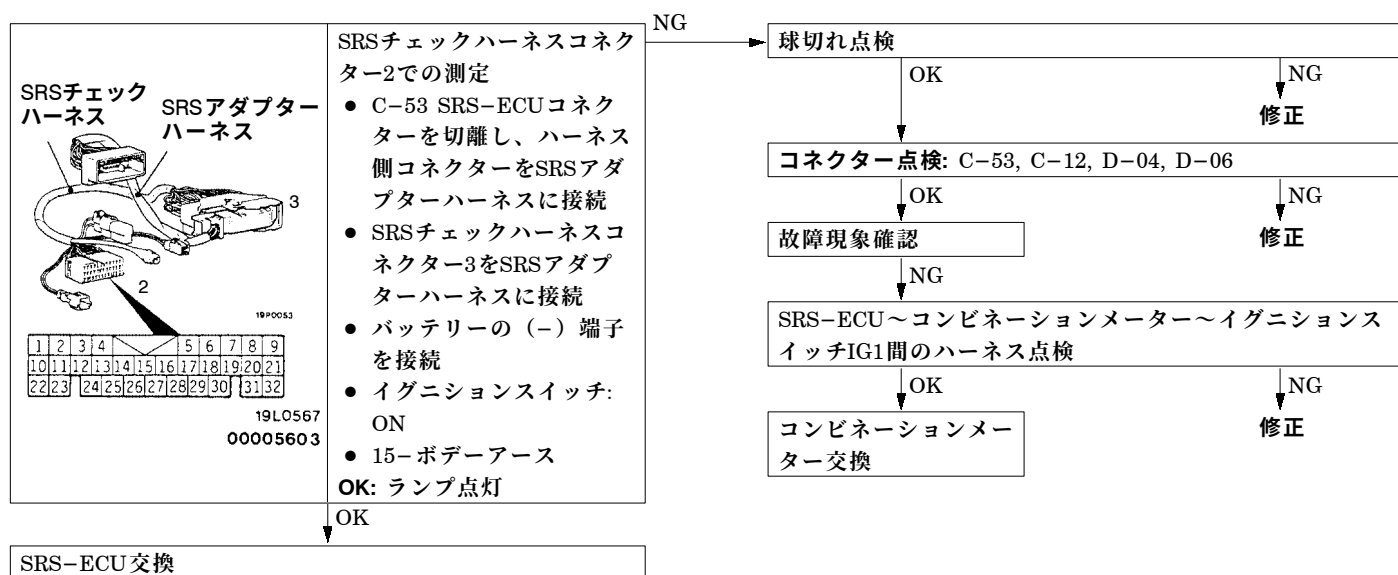


コードNo.43 SRSウォーニングランプ駆動回路系統（ランプが点灯しない。）	推定不具合原因
このコードは、SRSウォーニングランプ駆動回路が5秒以上連続して断線となったとき、出力される。但し、断線故障でこのコードが出力された場合、正常に復帰すればコードNo.43は自動消去し、SRSウォーニングランプは正常となる。	● ハーネス、コネクタ不良 ● 球切れ ● SRS-ECU不良 ● コンビネーションメーター不良

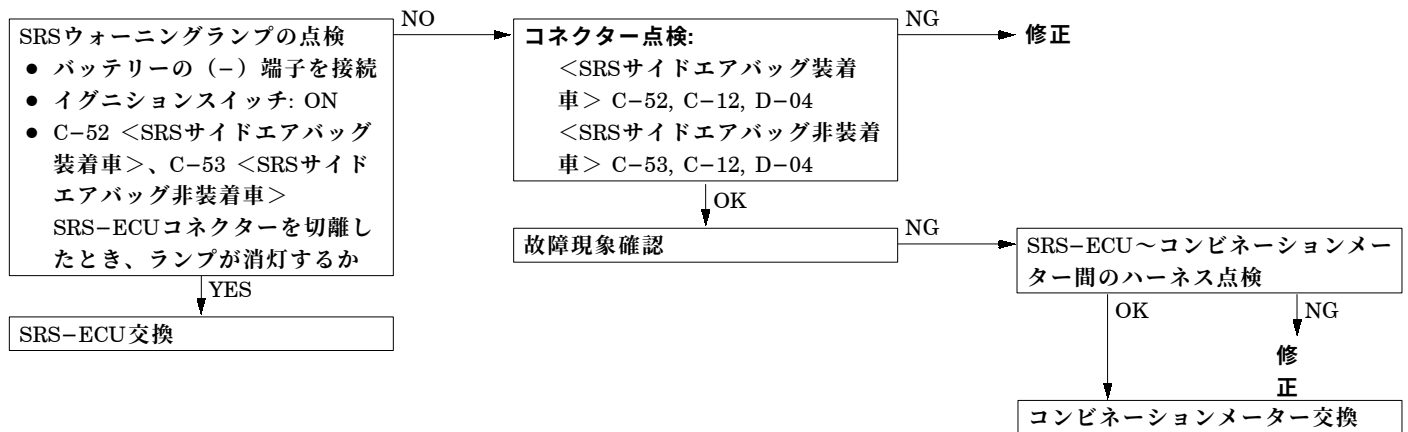
<SRSサイドエアバッグ装着車>



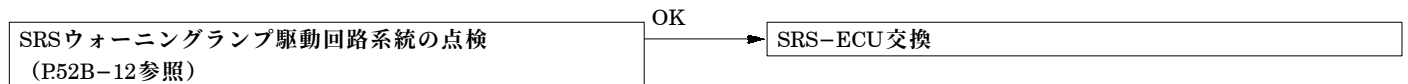
<SRSサイドエアバッグ非装着車>



コードNo.43 SRSウォーニングランプ回路系統（ランプが消灯しない。）	推定不具合原因
このコードは、SRSウォーニングランプとSRS-ECU間のハーネスがアースにショートしているとき出力される。	● ハーネス、コネクタ不良 ● SRS-ECU不良 ● コンビネーションメーター不良



コードNo.44 SRSウォーニングランプ駆動回路系統	推定不具合原因
このコードは、SRSウォーニングランプ駆動回路のショート又はSRS-ECU内の出力トランジスターの故障を検出したとき出力される。但し、正常に復帰したとき、コードNo.44は自動消去し、SRSウォーニングランプは消灯する。	● ハーネス、コネクター不良 ● SRS-ECU不良



コードNo.45 SRS-ECU内不揮発性メモリー系統	推定不具合原因
このコードは、SRS-ECU内の不揮発性メモリー (EEPROM) などが内部故障したとき出力される。	SRS-ECU不良

SRS-ECU交換

コードNo.51又は52 運転席エアバッグモジュール (スクイブ点火駆動回路) 系統	推定不具合原因
このコードは、スクイブ点火駆動回路がショートしたとき (コードNo.51) や断線したとき (コードNo.52) 出力される。	SRS-ECU不良

SRS-ECU交換

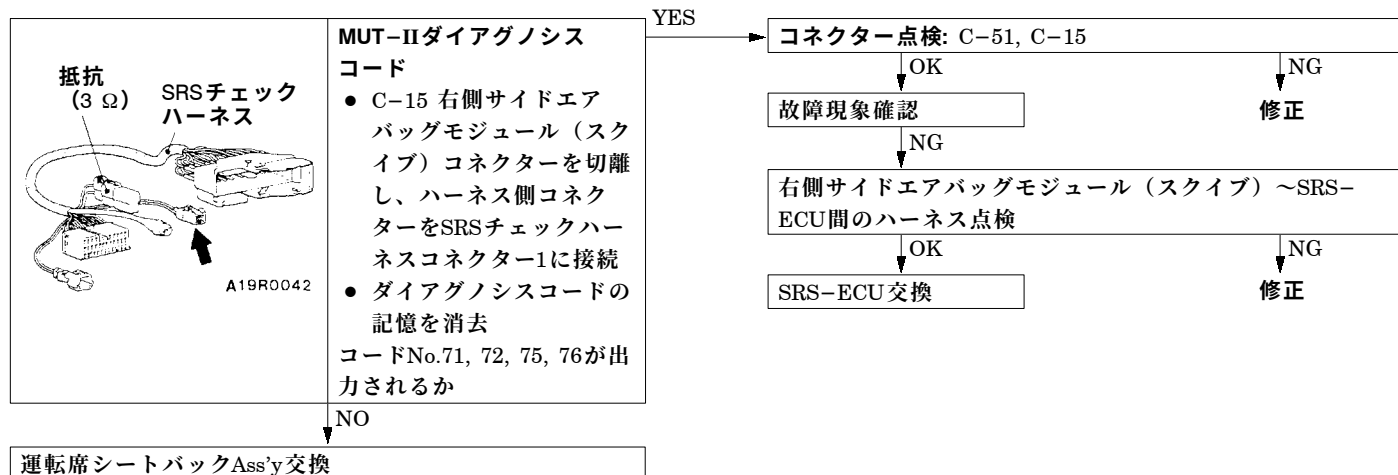
コードNo.54又は55 助手席エアバッグモジュール (スクイブ点火駆動回路) 系統	推定不具合原因
このコードは、スクイブ点火駆動回路がショートしたとき (コードNo.54) や断線したとき (コードNo.55) 出力される。	SRS-ECU不良

SRS-ECU交換

コードNo.71, 72, 75, 76 右側サイドエアバッグモジュール (スクイブ) 系統	推定不具合原因
このコードは、SRS-ECUの右側サイドエアバッグモジュール (スクイブ) の入力端子間抵抗値が正常と異なるとき出力される。各コードNo.の故障原因は、表1 (P52B-14) を参照する。	● ハーネス、コネクター不良 ● 右側サイドエアバッグモジュール (スクイブ) 不良 ● SRS-ECU不良

表1

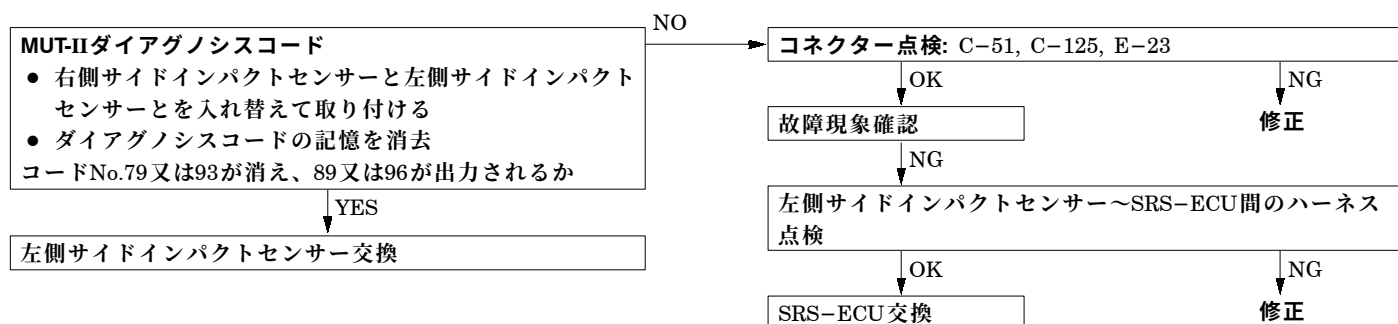
コードNo.	故障原因
71	右側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）のショート又はハーネスショート
72	● 右側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）の断線又はハーネス断線 ● コネクター接触不良
75	右側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）のハーネスが電源へショート
76	右側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）のハーネスがアースへショート



コードNo.73又は74 右側サイドエアバッグモジュール（スクイブ） 点火回路系統	推定不具合原因
このコードは、スクイブ点火駆動回路がショートしたとき（コードNo.73）や断線したとき（コードNo.74）出力される	SRS-ECU不良

SRS-ECU交換

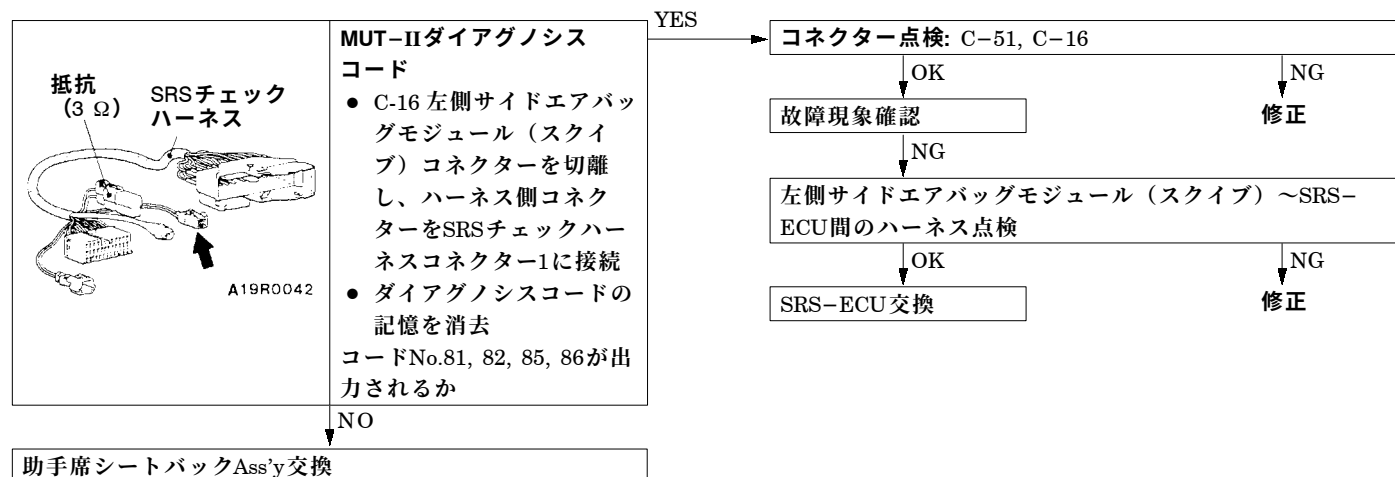
コードNo.79又は93 左側サイドインパクトセンサー通信系統	推定不具合原因
このコードは、左側サイドインパクトセンサーとSRS-ECUとの通信が不能なとき（コードNo.79）や異常なとき（コードNo.93）出力される	● ハーネス、コネクター不良 ● 左側サイドインパクトセンサー不良 ● SRS-ECU不良



コードNo.81, 82, 85, 86 左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）系統	推定不具合原因
このコードは、SRS-ECUの左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）の入力端子間抵抗値が正常と異なるとき出力される。 各コードNo.の故障原因は、表1（P52B-15）を参照する。	● ハーネス、コネクター不良 ● 左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）不良 ● SRS-ECU不良

表1

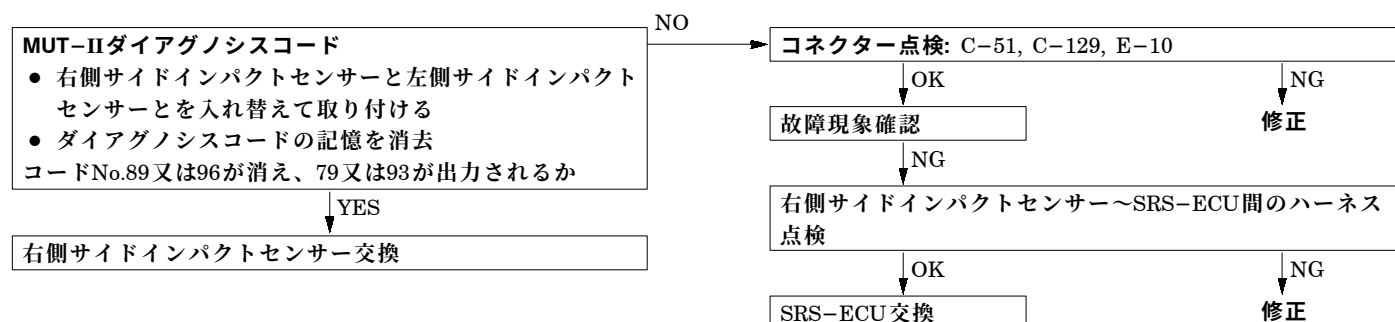
コードNo.	故障原因
81	左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）のショート又はハーネスショート
82	● 左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）の断線又はハーネス断線 ● コネクター接触不良
85	左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）のハーネスが電源へショート
86	左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ）のハーネスがアースへショート



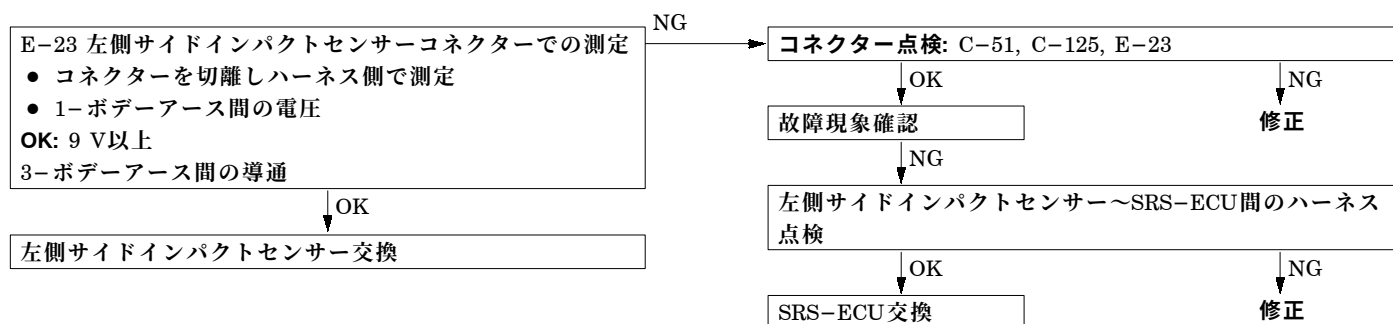
コードNo.83又は84 左側サイドエアバッグモジュール（スクイブ） 点火回路系統	推定不具合原因
このコードは、スクイブ点火駆動回路がショートしたとき（コードNo.83）や断線したとき（コードNo.84）出力される	SRS-ECU不良

SRS-ECU交換

コードNo.89又は96 右側サイドインパクトセンサー通信系統	推定不具合原因
このコードは、右側サイドインパクトセンサーとSRS-ECUとの通信が不能なとき（コードNo.89）や異常なとき（コードNo.96）出力される	● ハーネス、コネクター不良 ● 右側サイドインパクトセンサー不良 ● SRS-ECU不良



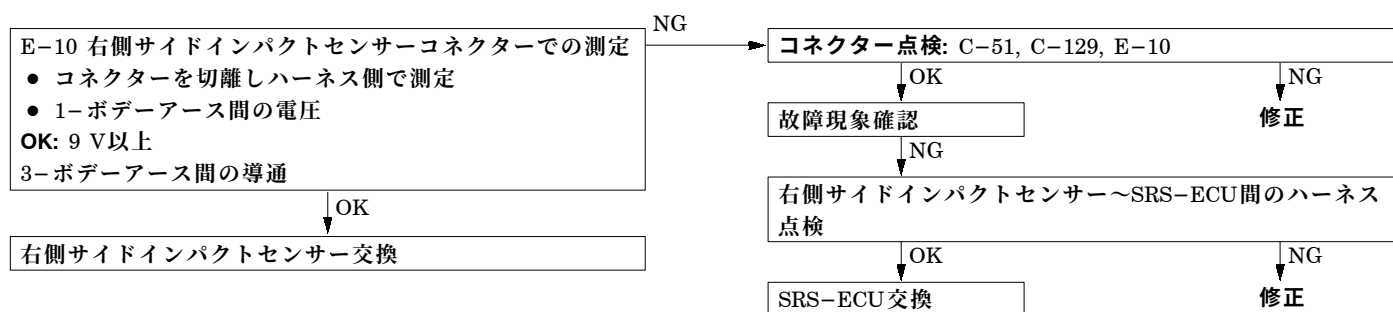
コードNo.91 左側サイドインパクトセンサー電源回路系統	推定不具合原因
このコードは、左側サイドインパクトセンサーの電源電圧が、5秒間連続して規定値より低下したとき出力される。 但し、正常に復帰したとき、コードNo.91は自動消去し、SRSウォーニングランプは消灯する。	● ハーネス、コネクタ不良 ● 左側サイドインパクトセンサー不良 ● SRS-ECU不良



コードNo.92 左側サイドインパクトセンサー系統	推定不具合原因
このコードは、アナログGセンサー出力より次の現象を検知したとき出力される。 ● アナログGセンサーが作動しないとき ● アナログGセンサーの特性が異常なとき ● アナログGセンサーの出力が異常なとき	左側サイドインパクトセンサー不良

左側サイドインパクトセンサー交換

コードNo.94 右側サイドインパクトセンサー電源回路系統	推定不具合原因
このコードは、右側サイドインパクトセンサーの電源電圧が、5秒間連続して規定値より低下したとき出力される。 但し、正常に復帰したとき、コードNo.94は自動消去し、SRSウォーニングランプは消灯する。	● ハーネス、コネクタ不良 ● 右側サイドインパクトセンサー不良 ● SRS-ECU不良



コードNo.95 右側サイドインパクトセンサー系統	推定不具合原因
このコードは、アナログGセンサー出力より次の現象を検知したとき出力される。 ● アナログGセンサーが作動しないとき ● アナログGセンサーの特性が異常なとき ● アナログGセンサーの出力が異常なとき	右側サイドインパクトセンサー不良

右側サイドインパクトセンサー交換

6. 故障現象分類表

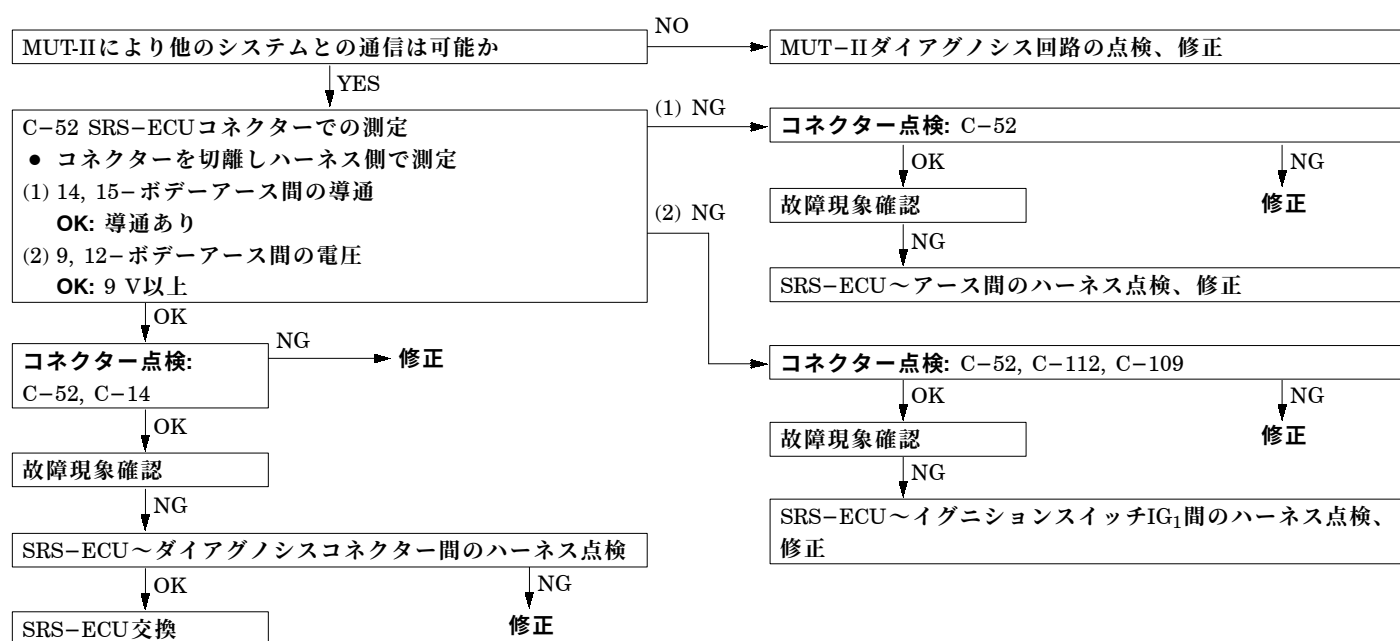
故障現象	故障現象別点検手順No.	参照ページ
MUT-IIと通信できない	1	52B-17
SRSウォーニングランプが点灯しない	ダイアグノシスコードNo.43参照	52B-12
SRSウォーニングランプが消灯しない	ダイアグノシスコードNo.43, 44参照	52B-12

7. 故障現象別点検手順

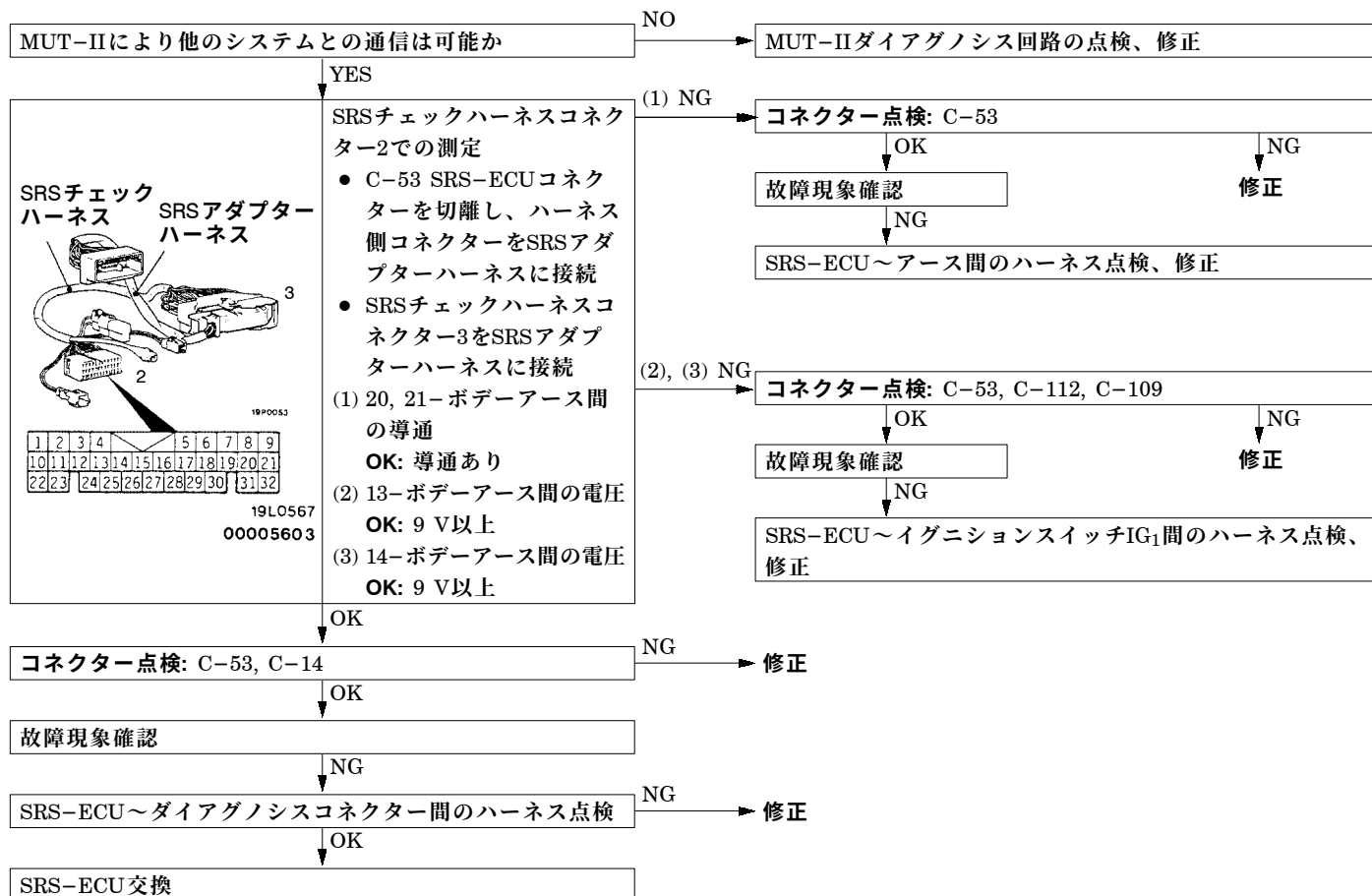
点検手順 1

MUT-IIと通信できない	推定不具合原因
他の全てのシステムとも通信できない場合はダイアグノシス回路不良の可能性が高い。SRSエアバッグのみ通信できない場合はSRS-ECUのダイアグノシス出力回路又は電源回路（含むアース回路）の断線が考えられる。	● ハーネス、コネクタ不良 ● SRS-ECU不良

<SRSサイドエアバッグ装着車>



<SRSサイドエアバッグ非装着車>



衝突車両の診断

エアバッグの展開又は非展開に拘らず、衝突車両の点検及び整備は下記手順で行う。

1. SRS-ECUの記憶データ点検

- (1) MUT-IIをダイアグノシスコネクターに接続する。
(グループ00-トラブルシューティングの見方・点検要領参照)
- (2) MUT-IIを使用してダイアグノシスコードを全て読み取る。

備考

衝突による衝撃等でバッテリー電源が供給されない場合MUT-IIとSRS-ECUが通信できなくなるので、その場合はダッシュワイヤリングハーネスの点検又は修正を行う。

- (3) MUT-IIで故障継続時間及び記憶消去回数を読み取る。

備考

- 1) 最大記憶時間: 9,999分 (約7日間)
- 2) 最大記憶消去回数: 250回

- (4) ダイアグノシスコードの記憶を消去し、45秒以上待って再度ダイアグノシスコードを読み取る。

2. 修理手順

2-1 運転席、助手席エアバッグが展開した場合

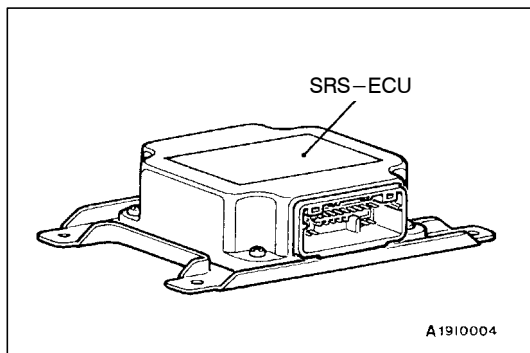
- (1) 次の部品を新品と交換する。
 - SRS-ECU (P52B-23参照)
 - 運転席エアバッグモジュール (P52B-25参照)
 - 助手席エアバッグモジュール (P52B-26参照)
 - インストルメントパッドAss'y (グループ52A-インストルメントパネル参照)
- (2) 次の部品を点検し、異常があれば交換する。
 - クロックスプリング (P52B-25参照)
 - ステアリングホイール、ステアリングコラム及びロワーシャフトAss'y
 - 1) ワイヤリングハーネス (ステアリングホイール内蔵) 及びコネクターの損傷、端子の変形を点検する。
 - 2) 運転席エアバッグモジュールのステアリングホイールへの取付け状態を確認する。
 - 3) ステアリングホイールからの異音、かみ込み、作動不良及び遊びを点検する。
- (3) ハーネスのかみ込み、コネクターの損傷及び端子の変形を点検する。(P52B-2, 3参照)

2-2 サイドエアバッグが展開した場合

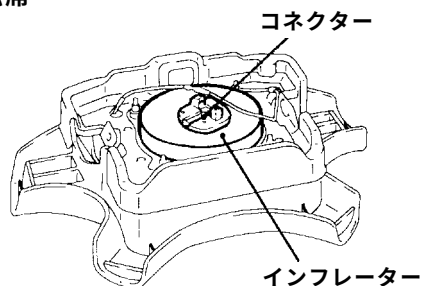
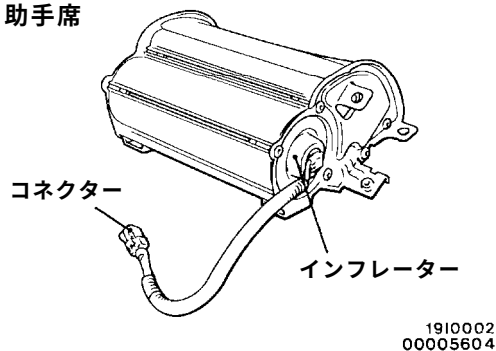
- (1) 次の部品を新品と交換する。
 - SRS-ECU (P52B-23参照)
 - サイドインパクトセンサー (P52B-30参照)
 - フロントシート バックAss'y (グループ52A-シート参照)
- (2) ハーネスのかみ込み、コネクターの損傷及び端子の変形を点検する。(P52B-2, 3参照)

2-3 低速による衝突でエアバッグが展開しなかった場合

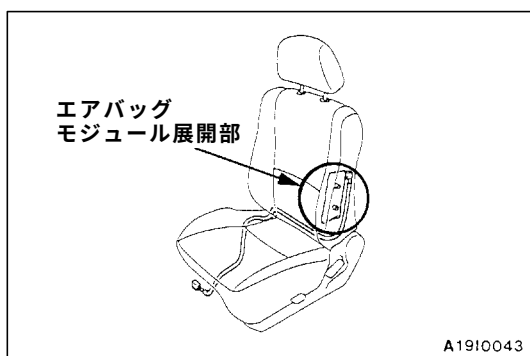
- (1) SRSエアバッグ構成部品を点検する。
- (2) もし、SRSエアバッグ構成部品にへこみ、割れ、変形等が目視により確認される場合は新品の部品と交換する。
- (3) 各部品の取外し・取付けは“SRSエアバッグ構成部品の整備”(P52B-22~31)を参照。

**SRS-ECU**

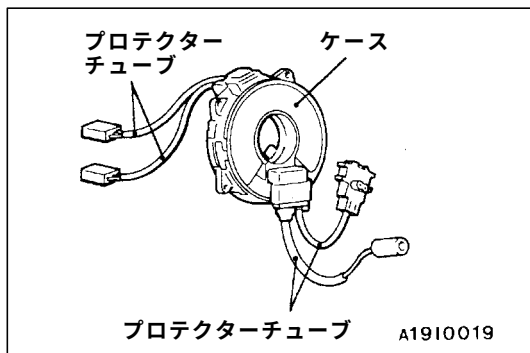
- (1) SRS-ECUケース及びブラケットのへこみ、割れ、変形を点検する。
- (2) コネクターの損傷及び端子の変形を点検する。

運転席**助手席****エアバッグモジュール**

- (1) パッドカバーのへこみ、割れ、変形を点検する。
- (2) コネクターの損傷、端子の変形及びハーネスのかみ込みを点検する。
- (3) インフレーターケースのへこみ、割れ、変形を点検する。
- (4) 運転席エアバッグモジュールのステアリングホイールへの取付け状態を確認する。

**フロントシートバックAss'y (サイドエアバッグモジュール)**

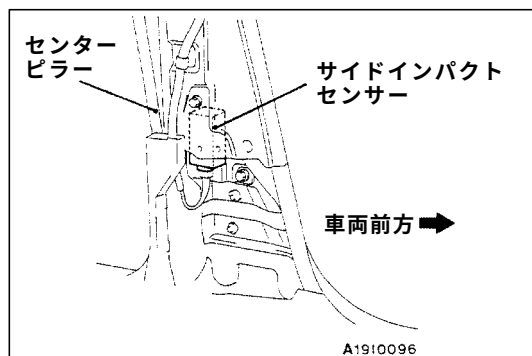
- (1) シートのエアバッグモジュール展開部に異常がないか点検する。
- (2) コネクターの損傷、端子の変形及びハーネスのかみ込みを点検する。

**クロックスプリング**

- (1) コネクター、プロテクターチューブの損傷及び端子の変形を点検する。
- (2) ケースの損傷を目視点検する。

ステアリングホイール、ステアリングコラム及びロワーシャフト Ass'y

- (1) ワイヤリングハーネス（ステアリングホイール内蔵）及びコネクタ－損傷、端子の変形を点検する。
- (2) 運転席エアバッグモジュールのステアリングホイールへの取付け状態を確認する。
- (3) ステアリングホイールからの異音、かみ込み、作動不良及び遊びを点検する。



サイドインパクトセンサー

- (1) センターピラーの変形、さびを点検する。
- (2) サイドインパクトセンサーのへこみ、割れ、変形及びさびを点検する。
- (3) センサーハーネスのかみ込み、コネクタ－の損傷及び端子の変形を点検する。

備考

左図はサイドインパクトセンサー左側を示し、サイドインパクトセンサー右側は対称である。

ハーネスコネクタ－（ダッシュワイヤリングハーネス、フロアワイヤリングハーネス）

ハーネスのかみ込み、コネクタ－の損傷及び端子の変形を点検する。
(P52B-2, 3参照)

SRSエアバッグ構成部品の整備

SRSエアバッグ構成部品の脱着は下記に示す手順に従って行うこと。(P52B-22～31)

注意

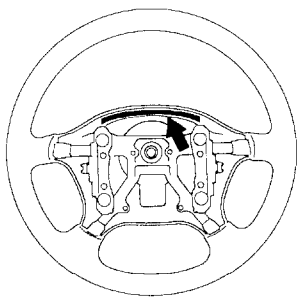
1. 塗装作業時に熱 (93℃以上) による影響が出る場合はSRS-ECU、エアバッグモジュール (運転席、助手席)、フロントシートAss'y (サイドエアバッグモジュール)、クロックスプリング、サイドインパクトセンサーを取外しておくこと。
2. 取外したSRSエアバッグ構成部品は清潔で乾燥した場所に保管しておくこと。

コーションラベル

SRSエアバッグの取扱いや整備を行う上での注意すべき事項を示したラベル類を下図の位置に貼付している。整備作業を行うときはラベルの記載に従い行うこと。

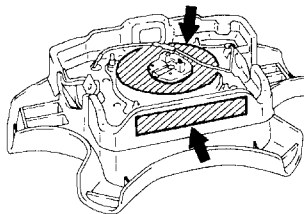
また、ラベルが破損又は汚れている場合は新品と交換する。

ステアリングホイール



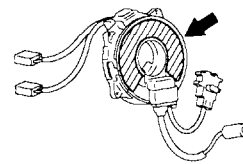
1910042

運転席エアバッグモジュール



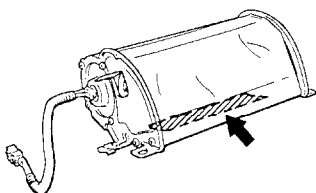
1910034

クロックスプリング



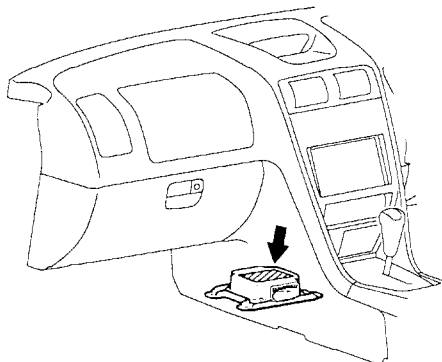
1910020

助手席エアバッグモジュール



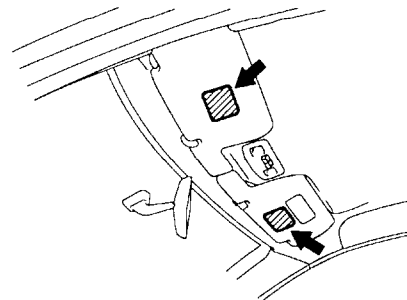
1910007

SRS-ECU



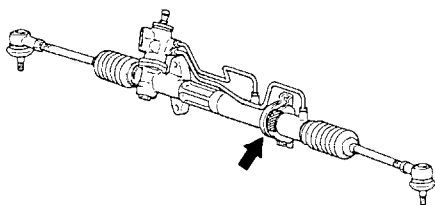
1910005

サンバイザー



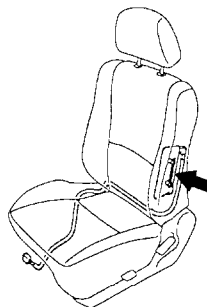
1910001

ステアリングギヤボックス



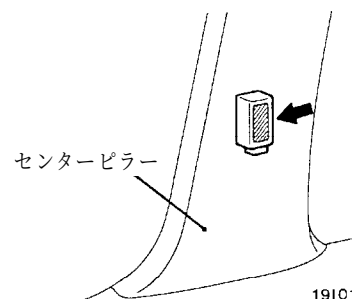
1910092

サイドエアバッグモジュール
(運転席、助手席)



1910091

サイドインパクトセンサー



1910102

00005605

SRSエアバッグコントロールユニット (SRS-ECU)

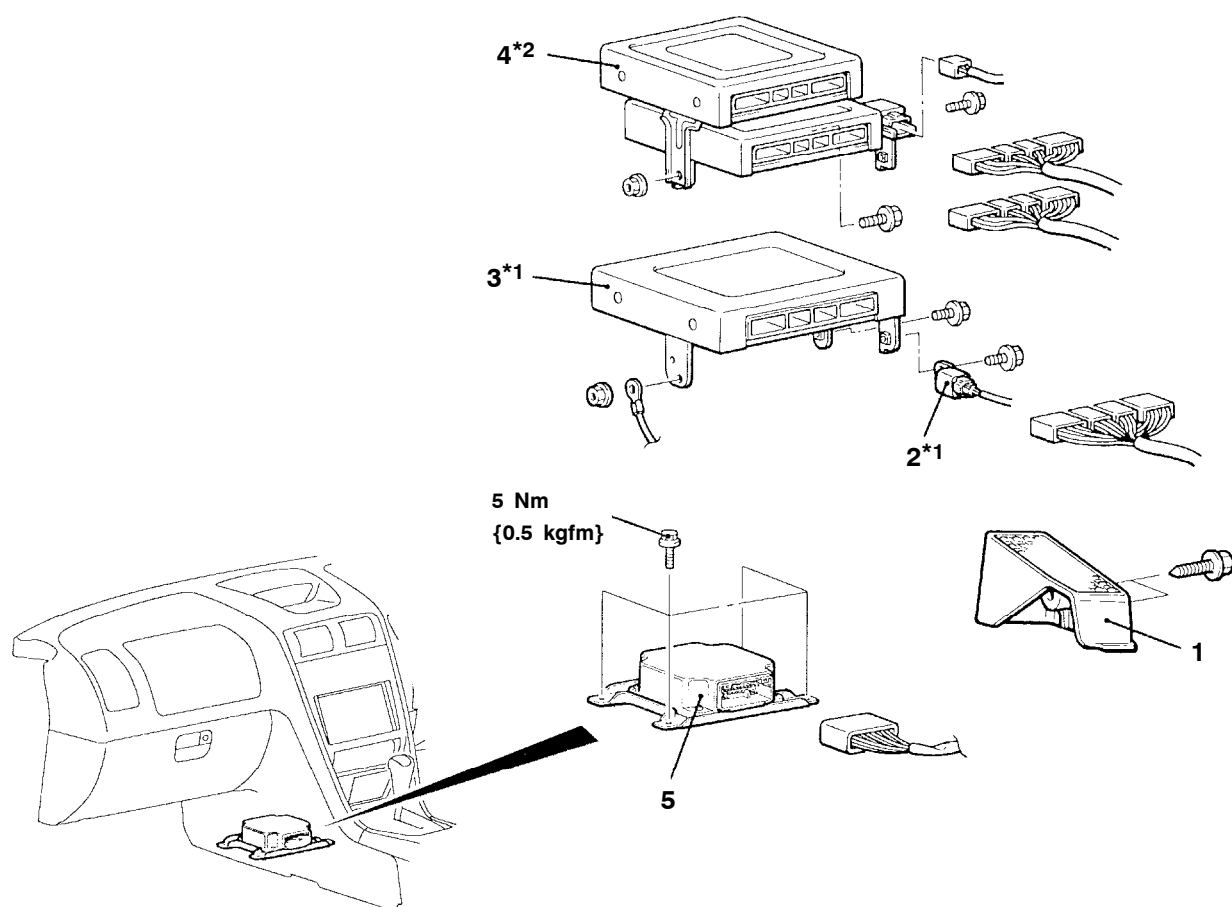
注意

1. バッテリー (-) 端子を外してから60秒以上待つて作業を行うこと。また、外したバッテリー (-) 端子はテープを巻いて絶縁すること。(P52B-4、整備上の注意の5項参照)
2. SRS-ECUは絶対に分解又は修理をしてはならない。故障時は新品のSRS-ECUと交換すること。
3. SRS-ECUの取扱いには充分注意し、落としたり振動や衝撃を与えたりしないこと。また、へこみ、割れ、変形等がある場合は必ず新品のSRS-ECUと交換すること。
4. エアバッグ展開後は必ず新品のSRS-ECUと交換すること。

取外し・取付け

取外し前の作業

イグニッションキーをLOCK位置にする。



A1910100

取外し手順

- ▶B◀
- 取付け後の点検
 - バッテリー (-) 端子の接続
 - ロワーカバー、サイドカバー (グループ52A-インストルメントパネル参照)
1. フットレスト
 2. A/Tコントロールリレー*1
 3. エンジン・A/T-ECU*1

4. エンジンECU、A/T-ECU及びA/Tコントロールリレー*2

- ▶A◀ 5. SRS-ECU

備考

*1: A/T (MPI-SOHC)

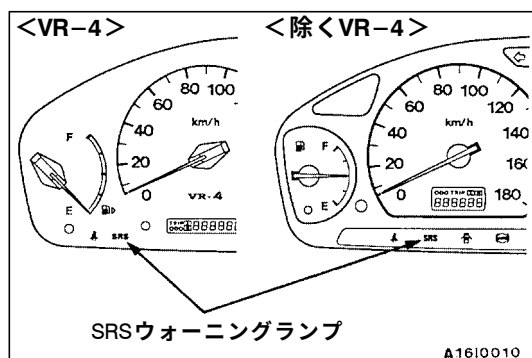
*2: M/T, A/T (GDI, MPI-DOHC)

取付けの要点

▶A◀ SRS-ECUの取付け

注意

SRS-ECUが確実に正しく取付けられていないとSRSエアバッグの正常な作動が妨げられる。



▶B◀ 取付け後の点検

1. イグニションスイッチをONにする。
2. SRSウォーニングランプが6～8秒間点灯し、その後5秒以上消灯していることを確認する。
3. もし消灯しない場合はトラブルシューティングを行う。
(P52B-12参照)

点検

SRS-ECUのへこみ、割れ、変形

注意

へこみ、割れ、変形等のある場合は新品のSRS-ECUと交換すること。

備考

上記以外のSRS-ECUの点検についてはトラブルシューティングの項を参照する。(P52B-7参照)

エアバッグモジュール・クロックスプリング

注意

1. バッテリー（-）端子を外してから60秒以上待って作業を行うこと。また、外したバッテリー（-）端子はテープを巻いて絶縁すること。（P52B-4、整備上の注意の5項参照）
2. エアバッグモジュール及びクロックスプリングは絶対に分解又は修理をしてはならない。故障時は新品の部品と交換すること。
3. エアバッグモジュール及びクロックスプリングの取扱いには充分注意し、落としたり、水や油等で濡らしたりしないこと。また、へこみ、割れ、変形等がある場合は必ず新品の部品と交換すること。
4. エアバッグモジュール（運転席、助手席）はエアバッグ展開面を上にして平坦な場所で保管すること。また、上に物を重ねて置かないこと。
5. エアバッグモジュールは、93°Cを超える場所で保管してはならない。
6. 運転席、助手席エアバッグ展開時は、エアバッグモジュールを新品と交換すること。また、クロックスプリングは点検し異常があれば新品と交換すること。
サイドエアバッグ展開時は、フロントシートバックAss'y（運転席、助手席）を新品と交換すること。
7. 展開済のエアバッグを取扱うときは、手袋、保護眼鏡を着用すること。
8. 展開前のエアバッグモジュール又はサイドエアバッグモジュール内蔵フロントシートバックAss'yを廃却する場合は必ずエアバッグを展開させた後廃却すること。（P52B-32参照）

取外し・取付け

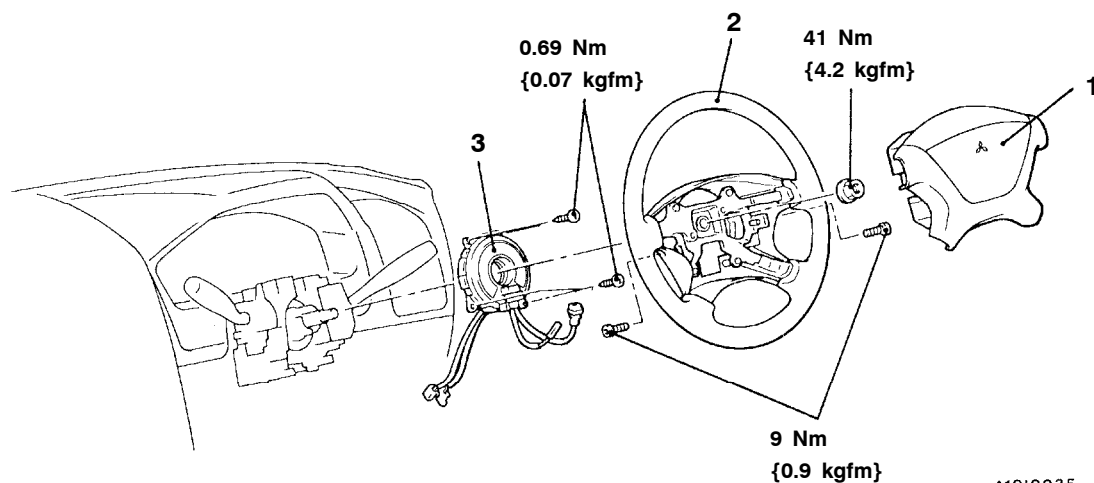
<サイドエアバッグモジュール>

サイドエアバッグモジュール内蔵フロントシートバックAss'yの取外し、取付けはグループ52A参照。

<エアバッグモジュール（運転席）、クロックスプリング>

取外し前の作業

ステアリングホイールとフロントホイールを直進状態にした後イグニッションキーを抜き取る。



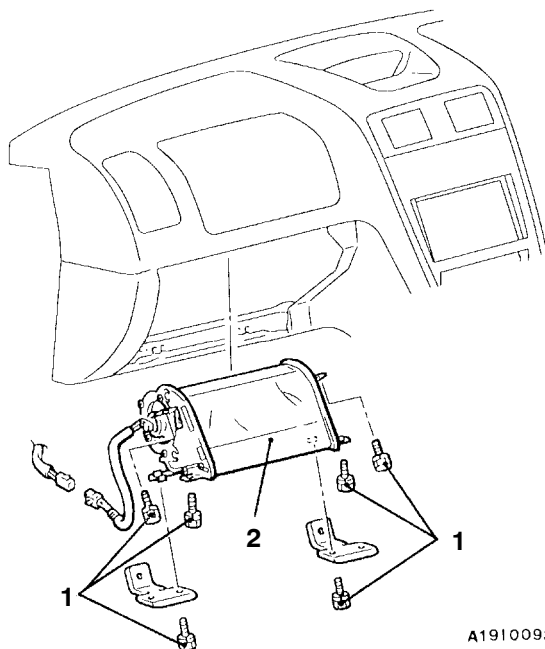
エアバッグモジュール（運転席）の取外し手順

- ▶D◀ ● 取付け後の点検
● バッテリー（-）端子の接続
◀A▶ 1. エアバッグモジュール（運転席）
▶A◀ ● 取付け前の点検

クロックスプリングの取外し手順

- ▶D◀ ● 取付け後の点検
● バッテリー（-）端子の接続
◀A▶ 1. エアバッグモジュール（運転席）
◀B▶ ▶C▶ 2. ステアリングホイール
● ロワーカバー、コラムカバー（グループ52A-インストルメントパネル参照）
◀C▶ ▶B▶ 3. クロックスプリング
▶A◀ ● 取付け前の点検

<エアバッグモジュール（助手席）>



A1910093

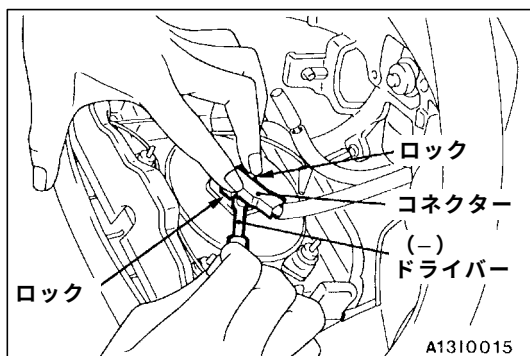
エアバッグモジュール（助手席）の取外し手順



- 取付け後の点検
- バッテリー（-）端子の接続
- グローブボックス（グループ52A-インストルメントパネル参照）



1. ボルト
 2. エアバッグモジュール（助手席）
- 取付け前の点検



A1310015

取外しの要点

◀A▶ エアバッグモジュール（運転席）の取外し

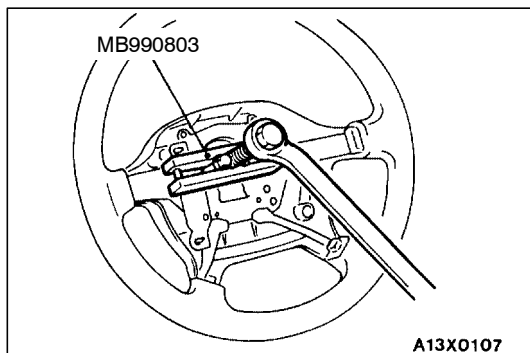
ロックを外側に押し広げ、左図のように（-）ドライバーでこじてコネクターを抜き取る。

注意

1. コネクターに無理な力が加わらないように注意して抜き取る。
2. 取外したエアバッグモジュールはパッド面を上にして、清潔で乾燥した場所で保管すること。

◀B▶ ステアリングホイールの取外し

特殊工具を使用してステアリングホイールを取外す。



A13X0107

◀C▶ クロックスプリングの取外し

注意

取外したクロックスプリングは、清潔で乾燥した場所で保管すること。

◀D▶ エアバッグモジュール（助手席）の取外し

注意

取外したエアバッグモジュールは展開面を上にして、清潔で乾燥した場所で保管すること。

取付けの要点

▶A◀ 取付け前の点検

1. 新品のエアバッグモジュール、クロックスプリングを取付ける場合にも、取付け前に点検を行う。(P52B-29参照)

注意

エアバッグモジュールを廃却するときは、規定の手順に従い、エアバッグを展開させてから廃却すること。(P52B-32参照)

2. バッテリーの（-）端子を接続する。
3. MUT-IIをダイアグノシスコネクター16ピンに接続する。

注意

MUT-IIの接続及び切離しは必ずイグニションスイッチがOFFの状態で行うこと。

4. イグニションキーをON位置にする。
5. ダイアグノシスコードを読み取り、エアバッグモジュールの回路断線以外は正常であることを確認する。
6. イグニションキーをLOCK位置にする。
7. バッテリー（-）端子ケーブルを外し、テープを巻いて絶縁する。

注意

バッテリーの（-）端子ケーブルの接続を外してから60秒以上待って作業を行うこと。(P52B-4、整備上の注意の5項参照)

▶B◀ クロックスプリングの取付け

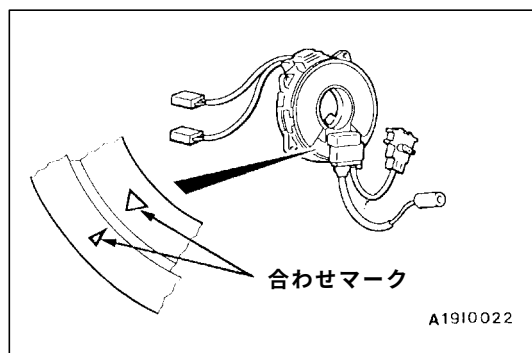
クロックスプリングのセンター合わせを次のように行った後、コラムスイッチにクロックスプリングを取付ける。

クロックスプリングのセンター合わせ:

時計回りに一杯までクロックスプリングを回した後、反対方向に約 $3\frac{4}{5}$ 回転戻し、合わせマークを合わせる。

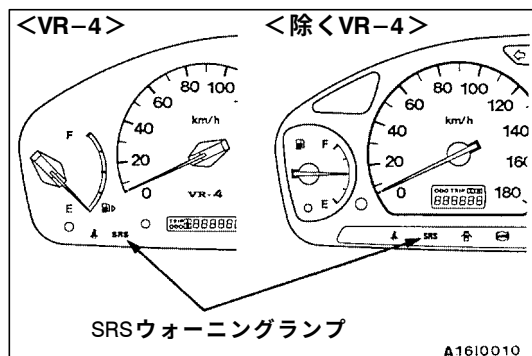
注意

クロックスプリングのセンターが合っていないと、ステアリングホイールが途中で回らなくなったり、クロックスプリング内のケーブルが切れる等の不具合が発生し、SRSエアバッグの正常な作動が妨げられる。



▶C◀ ステアリングホイールの取付け

1. クロックスプリングのセンター合わせを行ったか確認した後、ステアリングホイールを取付ける。
2. 取付け後ステアリングホイールを左右いっぱいにも切っても異常のないことを確認する。



▶D◀ 取付け後の点検

1. ステアリングホイールを軽く左右に回して異音又は作動不良がないことを確認する。
2. イグニションスイッチをONにする。
3. SRSウォーニングランプが6～8秒間点灯してその後5秒以上消灯していることを確認する。
4. もし消灯しない場合はトラブルシューティングを行う。
(P52B-12参照)

点検

1. エアバッグモジュール

以下の点検により一つでも不良な点があれば新品のエアバッグモジュールと交換する。

旧部品は規定の手順によりエアバッグを展開させた後、廃却する。(P52B-32参照)

注意

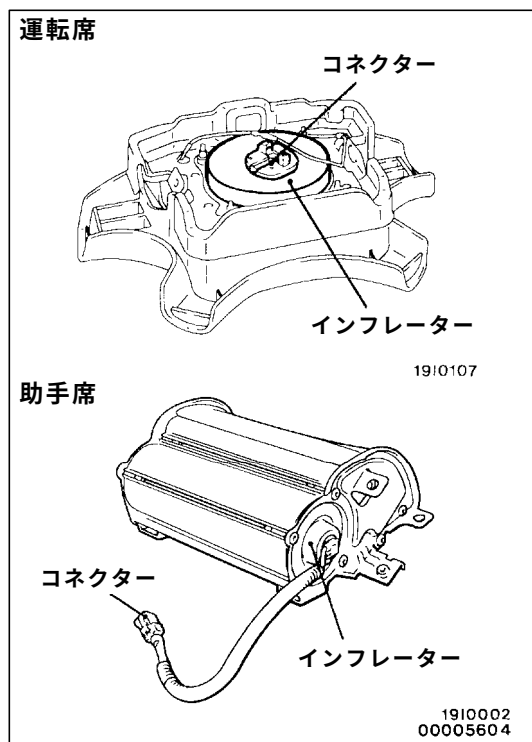
エアバッグモジュール（スクイブ）の回路抵抗は指定のテスターであっても、決して測定してはいけない。

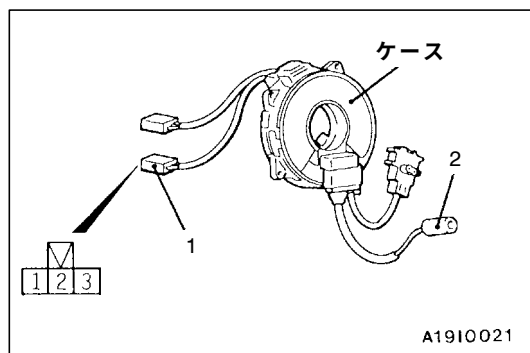
回路抵抗をテスターで測定するとスクイブに電流が流れ、又は静電気による誤展開により、重大な損害を引き起こす原因となる。

- (1) パッドカバーのへこみ、割れ、変形
- (2) ハーネス、ハーネスフック、コネクターの損傷及び端子の変形
- (3) インフレーターケースのへこみ、割れ、変形
- (4) エアバッグモジュールの取付け状態

注意

へこみ、割れ、変形等のある場合は新品のエアバッグモジュールと交換すること。旧部品は必ず展開後廃却すること。(P52B-32参照)

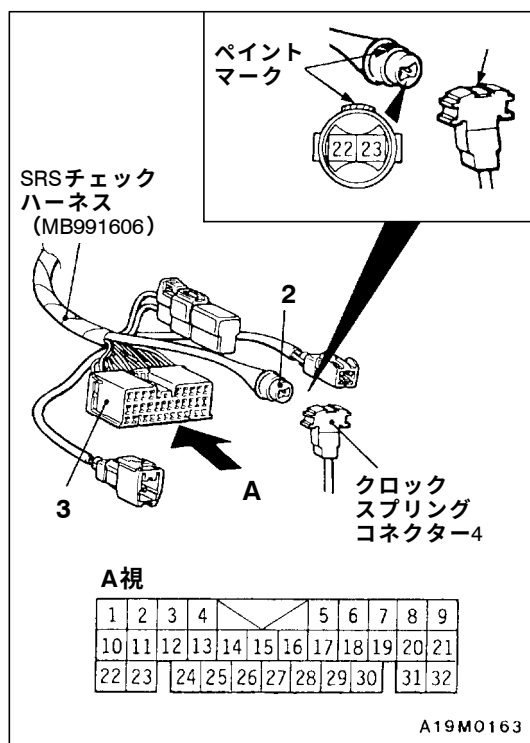




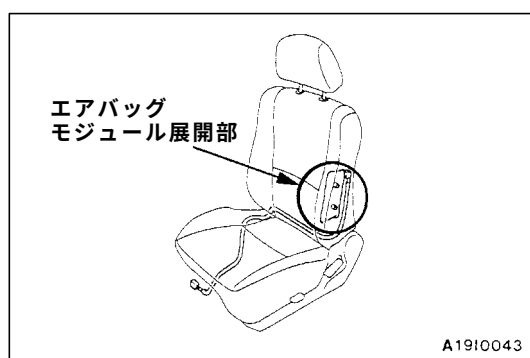
2. クロックスpring

以下の点検により一つでも不良な点があれば、新品のクロックスpringと交換する。

- (1) コネクター、プロテクターチューブの損傷及び端子の変形
- (2) ケースの損傷
- (3) クロックスpringのNo.1コネクターの端子3とNo.2コネクターに導通があることを点検する。



- (4) SRSチェックハーネスのコネクター2のペイントマーク部を、クロックスpringのコネクター4の矢印部に合わせ、コネクターを接続する。
- (5) SRSチェックハーネスコネクター3の端子No.25-26間の導通を点検する。



3. サイドエアバッグモジュール内蔵フロントシートバックAss'y

以下の点検により一つでも不良な点があればフロントシートバックAss'yを交換する。

旧シートバックAss'yは規定の手順によりエアバッグを展開させた後、廃却する。(P52B-32参照)

注意

エアバッグモジュール（スクイブ）の回路抵抗は指定のテスターであっても決して測定してはいけない。

回路抵抗をテスターで測定するとスクイブに電流が流れ、又は静電気による誤展開により、重大な損害を引き起こす原因となる。

- (1) エアバッグモジュール展開部のへこみ、変形
- (2) ハーネス、ハーネスフック、コネクターの損傷及び端子の変形

サイドインパクトセンサー

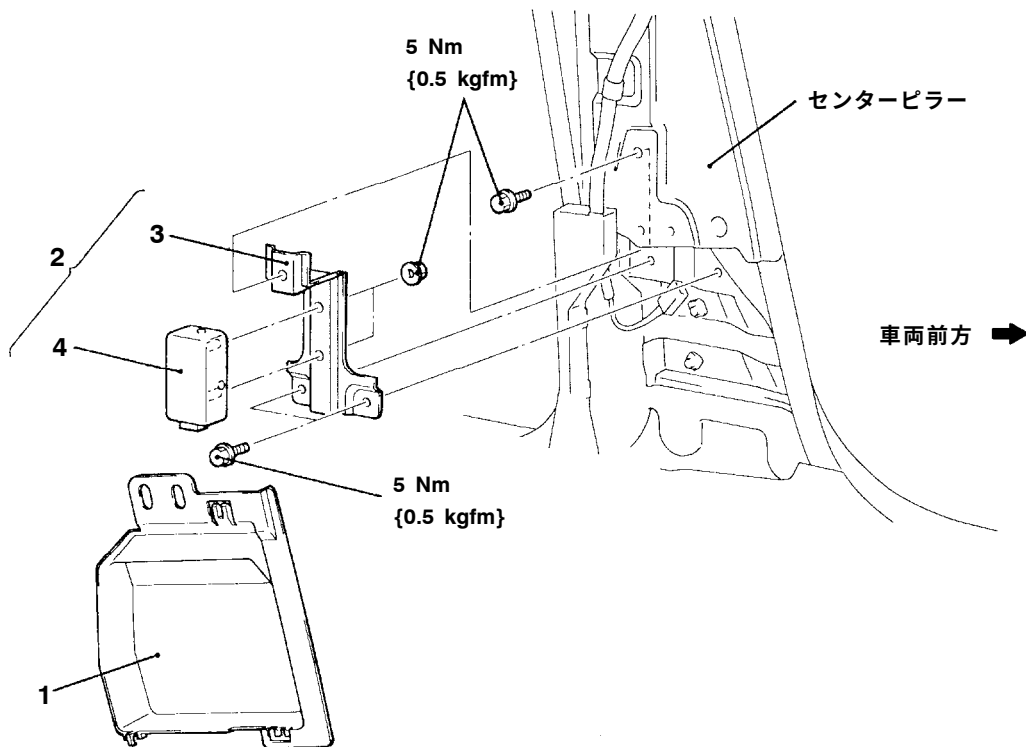
注意

1. バッテリー（-）端子を外してから60秒以上待って作業を行うこと。また、外したバッテリー（-）端子はテープを巻いて絶縁すること。（P52B-4、整備上の注意の5項参照）
2. サイドインパクトセンサーは絶対に分解又は修理をしてはならない。故障時は新品のセンサーと交換すること。
3. サイドインパクトセンサーの取扱いには充分注意し、落としたり振動や衝撃を与えたりしないこと。また、へこみ、割れ、変形等がある場合は必ず新品のセンサーと交換すること。
4. サイドエアバッグ展開後は必ず新品のセンサーと交換すること。

取外し・取付け

取外し前の作業

イグニッションキーをLOCK位置にする。



A1910095

取外し手順

- ▶C◀
- 取付け後の点検
 - バッテリー（-）端子の接続
 - センターピラーロフトリム（グループ52A-トリム参照）
 - フロントシートベルト（グループ52A参照）
1. カバー

2. サイドインパクトセンサー&ブラケット
3. ブラケット
- ▶B◀ 4. サイドインパクトセンサー
- ▶A◀ ● 取付け前の点検

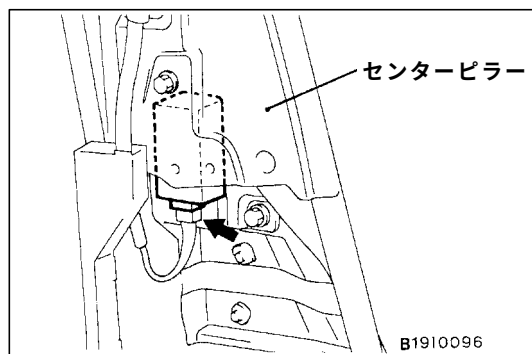
備考

上図は左側サイドインパクトセンサーを示し、右側は対称である。

取付けの要点

▶A◀ 取付け前の点検

新品のサイドインパクトセンサーを取付ける場合でもセンサーのへこみ、割れ、変形及び端子間抵抗を点検する。

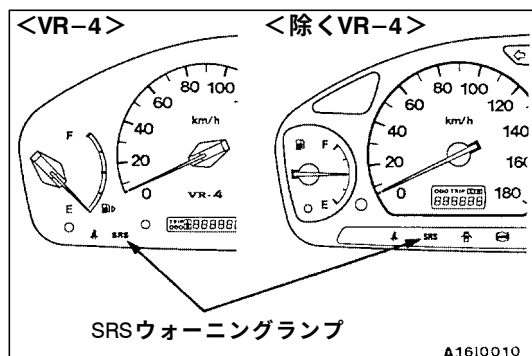


▶B◀ サイドインパクトセンサーの取付け

コネクターを確実に接続する。

注意

サイドインパクトセンサーが確実かつ正確に取付けられていないと、サイドエアバッグの正常な作動が妨げられる。



▶C◀ 取付け後の点検

1. イグニションスイッチをONにする。
2. SRSウォーニングランプが6～8秒間点灯し、その後5秒以上消灯していることを確認する。
3. もし消灯しない場合はトラブルシューティングを行う。
(P52B-12参照)

点検

1. サイドインパクトセンサーのへこみ、割れ、変形

注意

へこみ、割れ、変形等のある場合は新品のセンサーの交換すること。

備考

上記以外のサイドインパクトセンサーの点検についてはトラブルシューティングの項を参照する。(P52B-7参照)

2. センターピラーの変形、さび

エアバッグモジュール廃却要領

エアバッグモジュールを廃却するとき又はSRSエアバッグ装着車を廃車するときは、必ず下記の手順に従いエアバッグを展開させてから行うこと。

展開前のエアバッグモジュールの廃却

注意

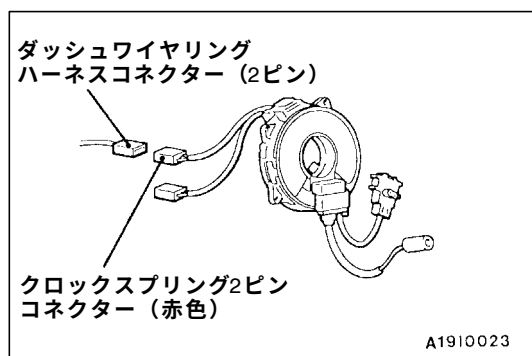
1. SRSエアバッグ装着車両を廃車するときは車内で全てのエアバッグを展開させること。
2. エアバッグモジュール又はサイドエアバッグモジュール内蔵フロントシートバックAss'yを交換するとき旧部品は車外でエアバッグを展開させること。
3. エアバッグ展開時にはかなりの煙が発生するので、換気の良い場所で行うこと。また、煙感知器等の近くでは行わないこと。
4. エアバッグ展開時は作動音が大きいのので、住宅地での展開は極力避け、近くに人がいるときは音に対する予告を行うこと。
5. エアバッグ展開作業を行う者、又は、すぐ近くにいる者は、耳せんをすること。

● 車内での展開

1. 車両を平坦で安全を確保できる場所に移動する。
2. バッテリーケーブルの(－)及び(＋)端子を取外し、バッテリーを車両から取外す。

注意

バッテリーケーブルの接続を外してから60秒以上待ってから作業を行うこと。(P52B-4、整備上の注意の5項参照)

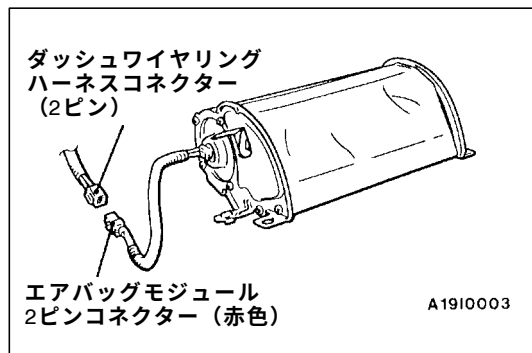


3. 運転席エアバッグモジュールの展開

- (1) ローカカバー及びコラムカバーローを取外す。(グループ52A-インストルメントパネル参照)
- (2) クロックスプリングの2ピン (赤色) コネクタとダッシュワイヤリングハーネスコネクタの接続を外す。

備考

クロックスプリングのコネクタをダッシュワイヤリングハーネスから取外すと、クロックスプリングのコネクタの両極が自動的に短絡され、静電気等による不意なエアバッグの展開を防止する。

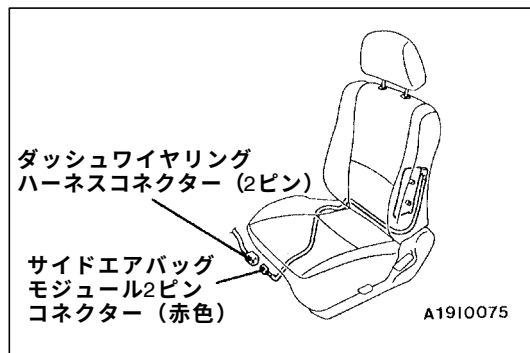


4. 助手席エアバッグモジュールの展開

グローブボックスを取外し、助手席エアバッグの2ピンコネクタ (赤色) の接続を外す。

備考

エアバッグモジュールのコネクタをダッシュワイヤリングハーネスから取外すと、エアバッグモジュールのコネクタの両極が自動的に短絡され、静電気等による不意なエアバッグの展開を防止する。



5. サイドエアバッグモジュールの展開

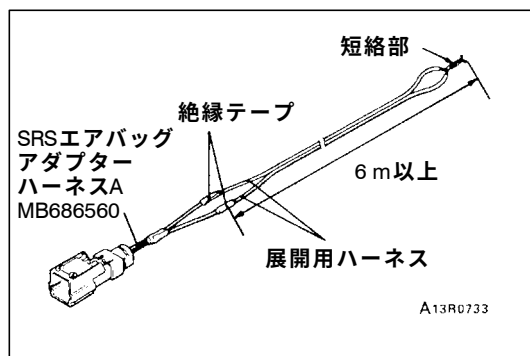
ダッシュワイヤリングハーネスとサイドエアバッグモジュールの2ピンコネクタ (赤色) の接続を外す。

注意

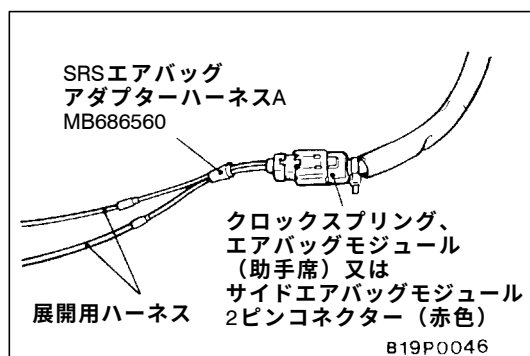
運転席側、助手席側ともサイドエアバッグモジュールを展開させること。

備考

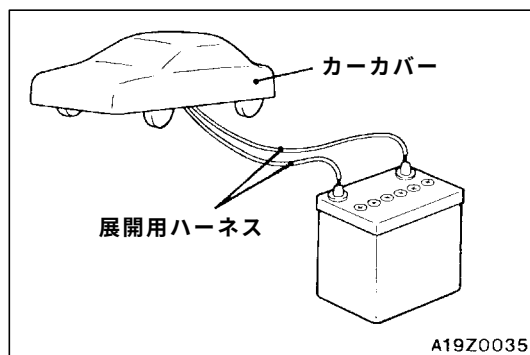
エアバッグモジュールのコネクタをダッシュワイヤリングハーネスから取外すと、エアバッグモジュールのコネクタの両極が自動的に短絡され、静電気等による不意なエアバッグの展開を防止する。



6. SRSエアバッグアダプターハーネスAの2本のハーネスに各々6 m以上の展開用ハーネスを接続し、接続部を絶縁テープで被覆する。更に展開用ハーネスの他端は、お互いに接続 (短絡) させておく。これにより静電気等による不意なエアバッグの展開を防止する。



7. クロックスプリング、エアバッグモジュール (助手席) 又はサイドエアバッグモジュール2ピンコネクタ (赤色) にSRSエアバッグアダプターハーネスAを接続し、展開用ハーネスを車外へ引き出す。



8. 作動音を極力抑えるため、全てのドアウィンドウガラスを全閉にしてドアを閉め、車両にカーカバーを掛ける。

注意

ガラスが傷ついている場合、割れることがあり危険なのでカーカバーを掛けること。

9. 車両からなるべく離れた場所で、展開用ハーネスの接続を切離し、車両から取外したバッテリーの両極に接続しエアバッグモジュールを展開させる。

注意

- (1) 車両及び車両付近に人がいないことを確認してから展開させること。
- (2) エアバッグ展開直後は、インフレーターが高温になっているので、30分以上放置しておきインフレーターが冷めてから取扱うこと。
- (3) 万が一エアバッグモジュールが展開しなかった場合、三菱自動車販売会社に相談すること。

10. 展開済みのエアバッグモジュールの廃却要領に従い廃却する。
(P52B-37参照)

● 車外での展開**注意**

1. エアバッグモジュールの展開は障害物や人から6 m以上離れた、広い平坦な場所で行うこと。
 2. 屋外で展開させるときは、強風時は避けること。微風時でもエアバッグモジュールより風上で点火すること。
1. バッテリーケーブルの(－)及び(＋)端子を取外し、バッテリーを車体から取外す。

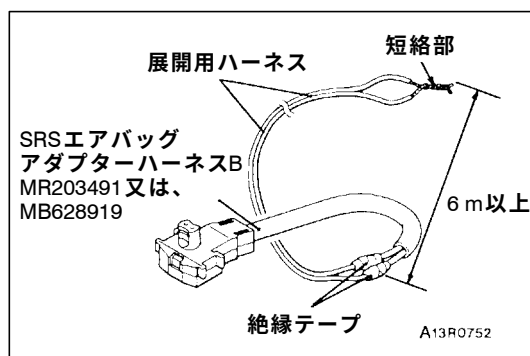
注意

バッテリーケーブルの接続を外してから60秒以上待つて作業を行うこと。(P52B-4、整備上の注意の5項参照)

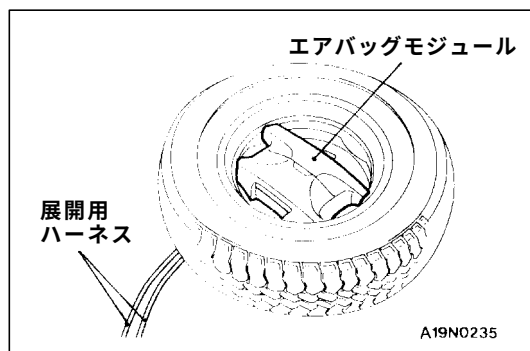
2. 車両からエアバッグモジュール(運転席、助手席)及びサイドエアバッグモジュール内蔵フロントシートバックAss'yを取外す。
(P52B-25, 26参照)

注意

エアバッグモジュールは、コネクターが接続されていない状態で端子の両極が自動的に短絡され、静電気等による誤展開を防止しているが、万が一の誤展開に備え、展開面を上にして平坦な場所で保管すること。また、上に物を重ねて置かないこと。

**3. 運転席エアバッグモジュールの展開**

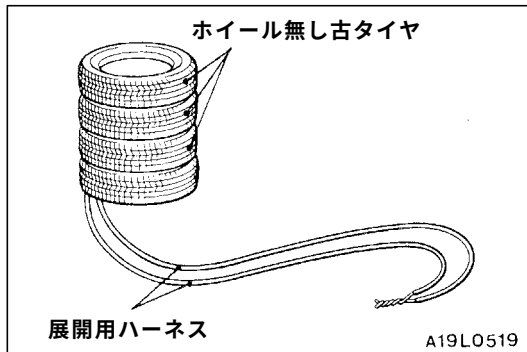
- (1) SRSエアバッグアダプターハーネスBの2本のハーネスに各々6 m以上の展開用ハーネスを接続し、接続部を絶縁テープで被覆する。
更に展開用ハーネスの他端は、お互いに接続(短絡)させておく。これにより静電気等による不意なエアバッグの展開を防止する。



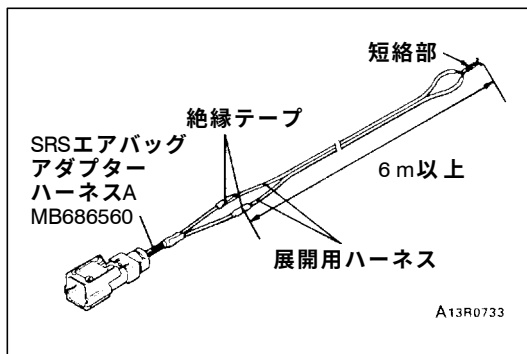
- (2) 運転席エアバッグモジュールの裏側のボルトに不要なナットを取付け、ホイールに固定するための太い針金等を結ぶ。
- (3) 展開用ハーネスを接続したSRSエアバッグアダプターハーネスBをホイール付き古タイヤの下から通して、運転席エアバッグモジュールに接続する。
- (4) 運転席エアバッグモジュールをホイール付き古タイヤのホイールに入れて、ボルトに結んだ針金等で固定し、運転席エアバッグモジュールを上に向けて置く。

注意

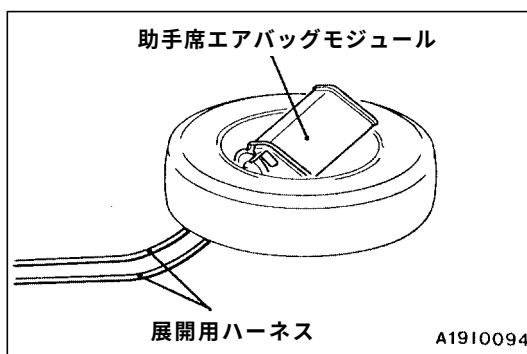
展開用ハーネスはホイールの下でゆとりをもたせること。ゆとりがないと展開時の作動によりアダプターハーネスが損傷することがある。



- (5) 運転席エアバッグモジュールを固定したタイヤの上にホイールの付いていない古タイヤを3個載せる。

**4. 助手席エアバッグモジュールの展開**

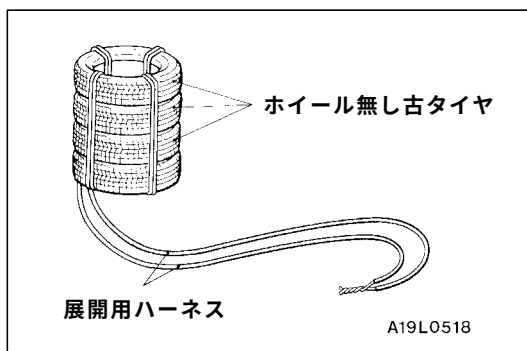
- (1) SRSエアバッグアダプターハーネスAの2本のハーネスに各々6 m以上の展開用ハーネスを接続し、接続部を絶縁テープで被覆する。
更に展開用ハーネスの他端は、お互いに接続（短絡）させておく。これにより、静電気等による不意な展開を防止する。
- (2) 展開用ハーネスを接続したSRSエアバッグアダプターハーネスAをホイール付き古タイヤの下から通して、助手席エアバッグモジュールに接続する。

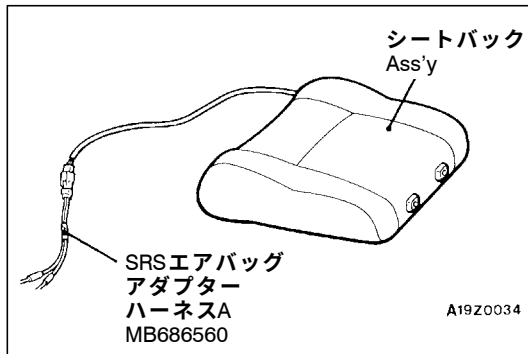
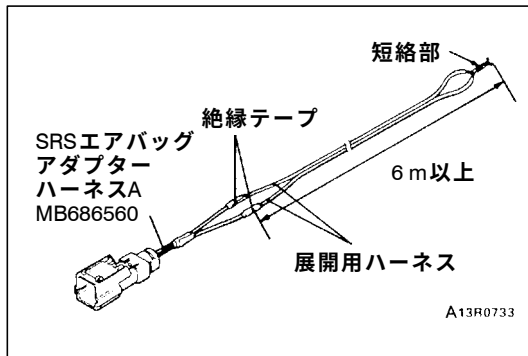


- (3) 太い針金を助手席エアバッグモジュールブラケットの穴に通し、助手席エアバッグモジュールの展開面を上にしてホイール付き古タイヤのホイールに固定する。(4箇所)

注意

- 1) 展開用ハーネスはホイールの下でゆとりをもたせること。ゆとりがないと展開時にアダプターハーネスが損傷することがある。
 - 2) SRSエアバッグアダプターハーネスAのコネクターは展開時にタイヤで挟み込まないようにしておく。
- (4) 助手席エアバッグモジュールを固定したタイヤの上にホイールの付いていない古タイヤを3個載せ、全てのタイヤをロープで縛り固定する。(4箇所)





5. サイドエアバッグモジュールの展開

- (1) SRSエアバッグアダプターハーネスAの2本のハーネスに各々6 m以上の展開用ハーネスを接続し、接続部を絶縁テープで被覆する。
更に、展開用ハーネスの他端はお互いに接続（短絡）させておく。これにより、静電気等による不意な展開を防止する。

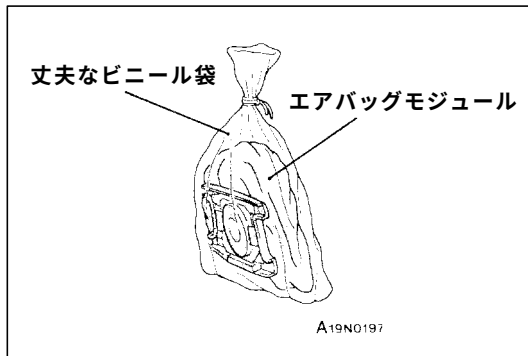
- (2) シートバックAss'yの背面が地面に接するようにシートバックAss'yを設置する。
- (3) 展開用ハーネスを接続したSRSエアバッグアダプターハーネスAをサイドエアバッグモジュールコネクタに接続する。

6. エアバッグモジュールからなるべく離れた場所で展開用ハーネスの接続を切離し、車両から取外したバッテリーの両極に接続し展開させる。

注意

- (1) エアバッグモジュール付近に人がいないことを確認してから展開させること。
- (2) エアバッグ展開直後は、インフレーターが高温になっているので30分以上放置しておきインフレーターが冷めてから取扱うこと。
- (3) 万が一エアバッグモジュールが展開しなかった場合は三菱自動車販売会社に相談すること。

7. 展開済みのエアバッグモジュールは廃却要領に従い廃却する。



展開済のエアバッグモジュールの廃却

展開済エアバッグモジュールは下記事項に注意して廃却すること。

1. エアバッグ展開直後はインフレーターが高温になっているので、30分以上放置しインフレーターが冷めてから取扱うこと。
2. 展開済のエアバッグモジュールに水や油などをかけないこと。
3. 展開済のエアバッグモジュールには、目や皮膚を刺激する物質が付着している恐れがあるので、取扱うときは手袋、保護眼鏡を着用すること。目や皮膚に着いたときは、大量の水で洗い流すこと。
4. エアバッグモジュール（運転席、助手席）は丈夫なビニール袋に密封して廃却すること。

備考

サイドエアバッグモジュールは有害なアジ化ナトリウムを含んでいないため、サイドエアバッグモジュール内蔵シートバック Ass'yはサイドエアバッグ非装着シートと同要領で廃却可。

5. 作業終了時には、必ず手を水洗いすること。

<メモ>